
**八雲町
高齢者保健福祉・介護保険に関する
アンケート調査結果報告書
《概要版》**

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査／在宅介護実態調査】

**令和2年7月
八雲町**

目 次

I. 調査の概要	1
1. アンケート調査の概要	1
2. 本報告書の留意点	1
II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果	2
1. 調査対象者の属性	2
2. 家族や生活状況について	5
3. からだを動かすことについて	7
4. 食べることについて	9
5. 毎日の生活について	11
6. 地域での活動について	13
7. たすけあいについて	15
8. 健康について	17
9. 認知症について	19
10. 介護予防について	20
11. 成年後見制度について	21
12. 介護保険制度及び保健福祉施策について	22
III. 在宅介護実態調査結果	27
1. 調査対象者の属性	27
2. 在宅で介護されている方の状況について	29
3. 主な介護者の状況について	36

I. 調査の概要

1. アンケート調査の概要

第8期介護保険事業計画策定にあたって、高齢者の生活状況や支援ニーズ、在宅介護者の状況等を把握するため、国の示す調査手法に基づき、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査を実施しました。

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査の目的	要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況、社会参加の状況などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しました。	要介護認定者の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向け、介護サービスの在り方を検討し、計画に反映させることを目的として実施しました。
対象者	65歳以上の一般高齢者及び要支援認定者から無作為抽出	要介護認定者及び介護者の家族（施設入所者は除く）
調査時期	令和2年5月7日(木)～6月17日(水)	
調査方法	郵送による配布・回収	郵送による配布、訪問による回収
配布数	1,500	229
有効回収数	836	152
有効回収率	55.7%	66.4%

2. 本報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

- ・ 比率は百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・ 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を100%として算出しています。
- ・ グラフに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・ 問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。
- ・ 文中の「要支援認定者」は、要支援1及び要支援2の認定者です。

II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1. 調査対象者の属性

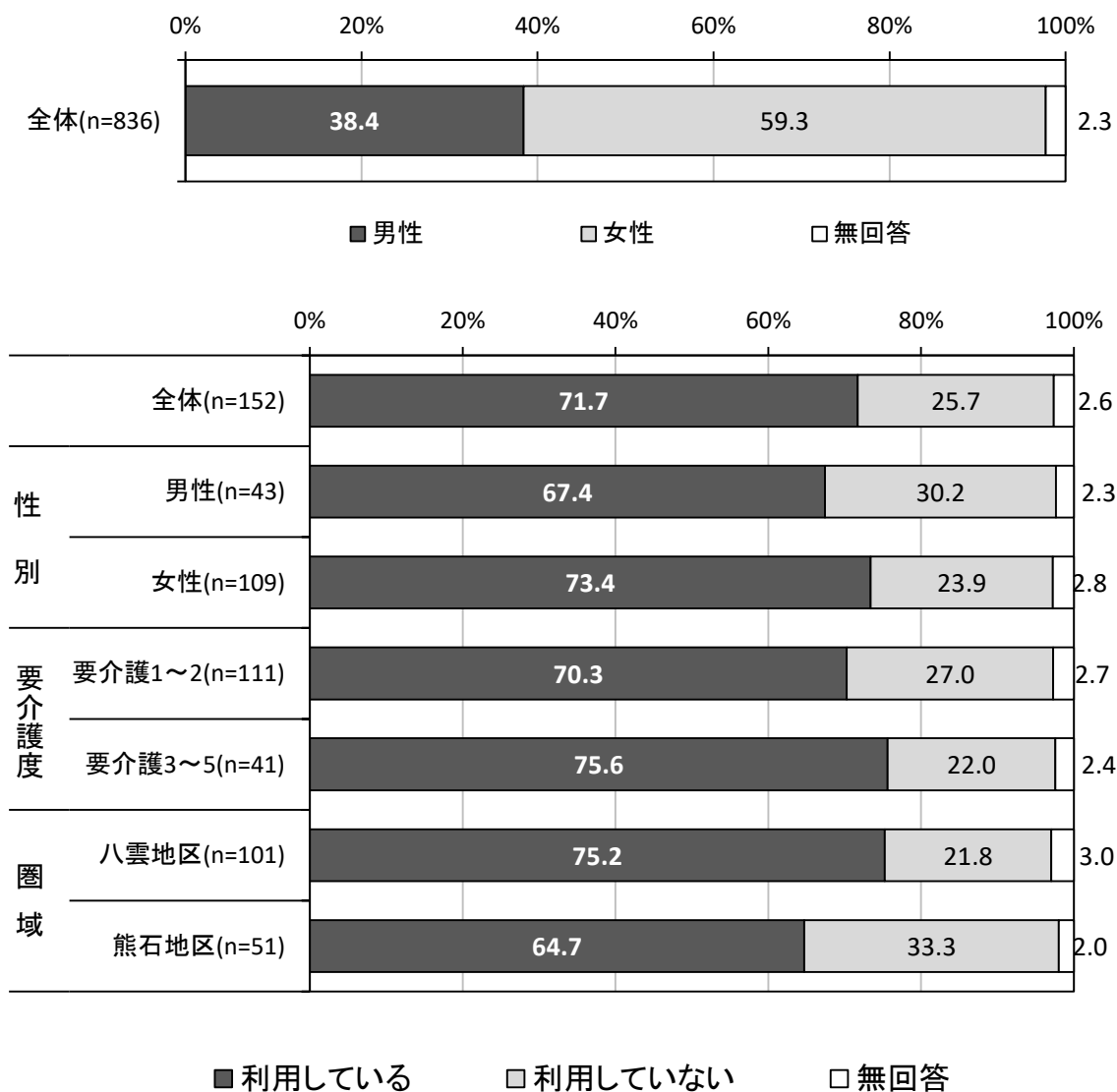
調査対象者の属性は、男性が 38.4%、女性が 59.3%で、年齢は「65～69 歳」が最も多く、年齢が高くなるにつれて少なくなっています。

男女ともに年齢が高くなるにつれて要支援認定者の割合が多くなっており、特に 85 歳以上の男性は「要支援 1」及び「要支援 2」の合計が 23.9%となっています。

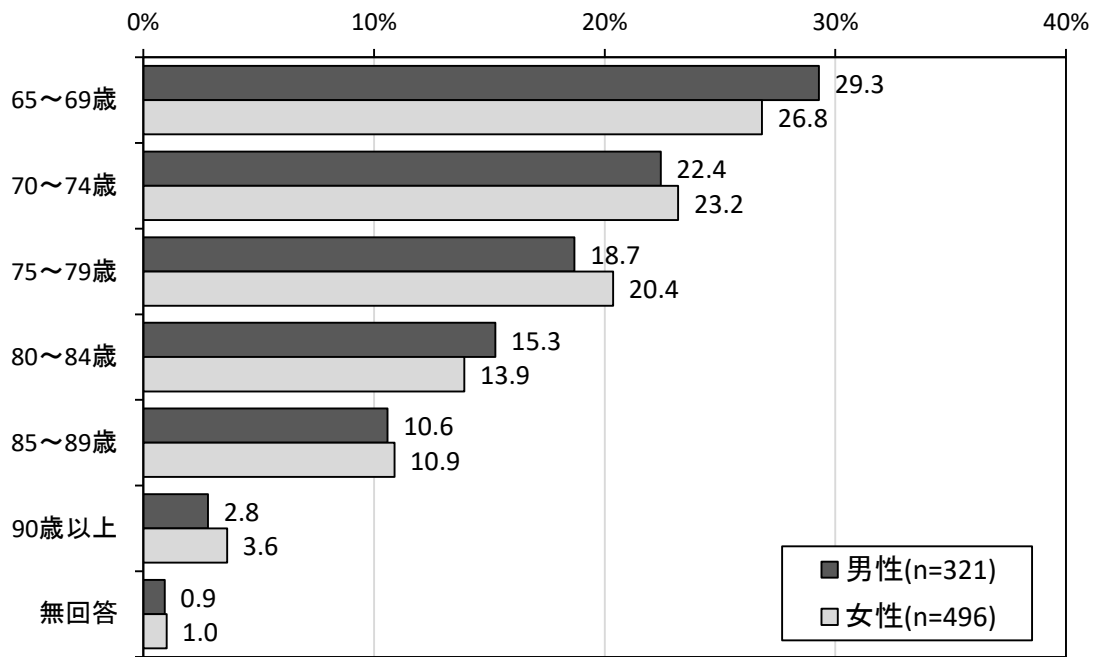
要支援認定者は、全体でみると「一般高齢者」が 89.8%を占めており、要支援認定者は「要支援 1」(5.1%)、「要支援 2」(2.6%)で、合計が 7.7%となっています。

また、日常生活圏域は、「八雲地区」が 74.9%、「熊石地区」が 22.8%となっています。

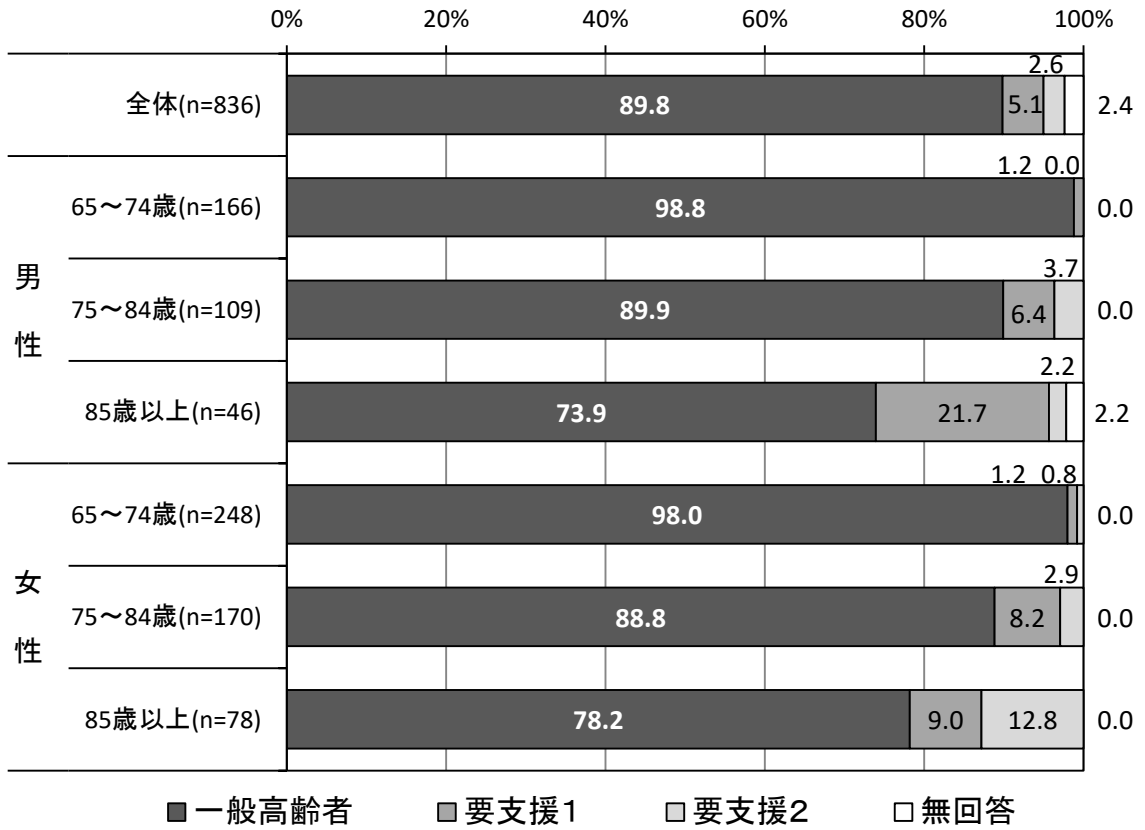
《調査対象者の性別》



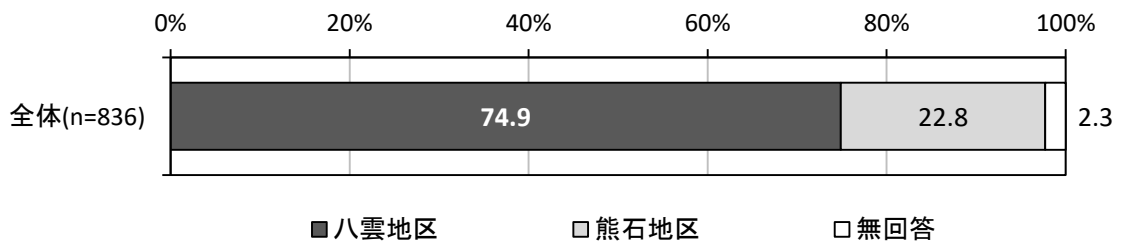
《調査対象者の年齢》



《調査対象者の要介護度》



《調査対象者の日常生活圏域》



2. 家族や生活状況について

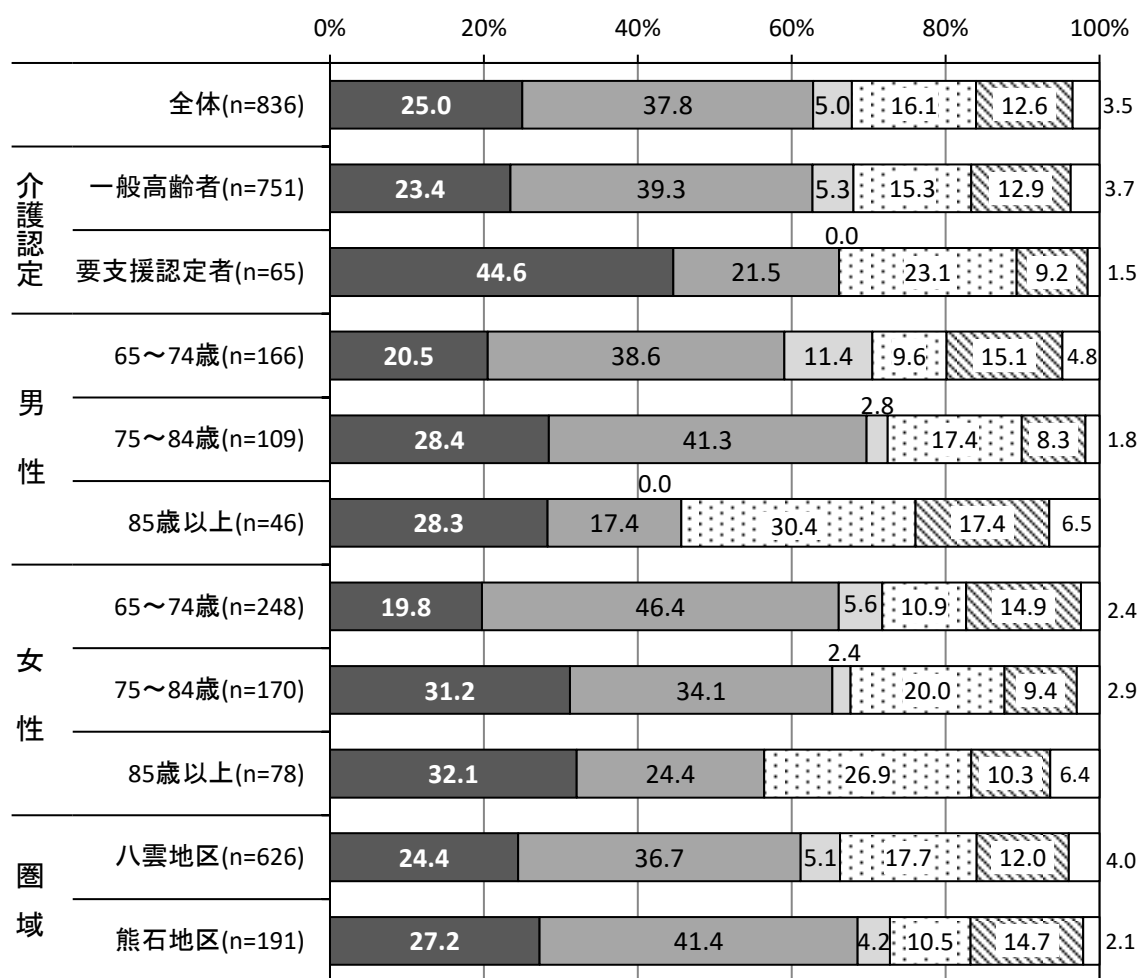
(1) 家族構成

全体では、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 37.8%で最も多く、次いで「1人暮らし」が 25.0%で続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「1人暮らし」が 44.6%で一般高齢者と比べて多くなっています。

男女年齢階級別で見ると、「1人暮らし」は、男女ともに 65～74 歳は約 20%、75 歳以上では約 30%となっています。

圏域別で見ると、熊石地区は八雲地区と比べて「息子・娘との2世帯」が 6.8 ポイント少なくなっています。



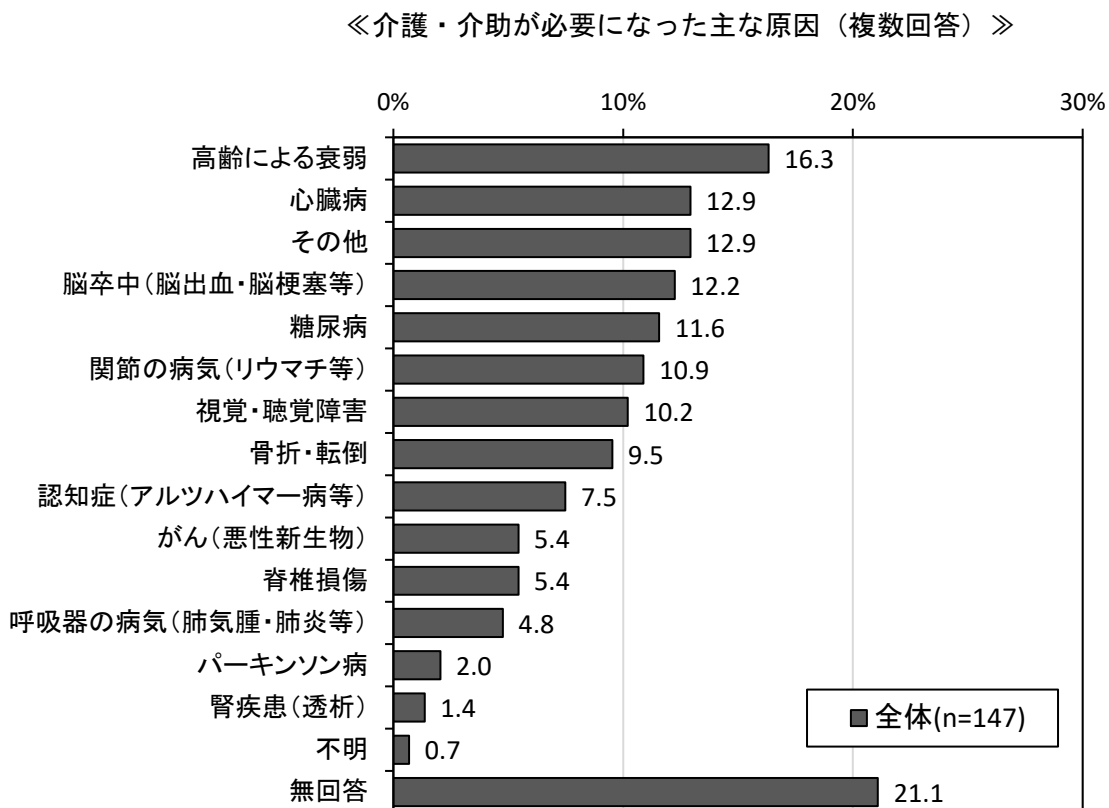
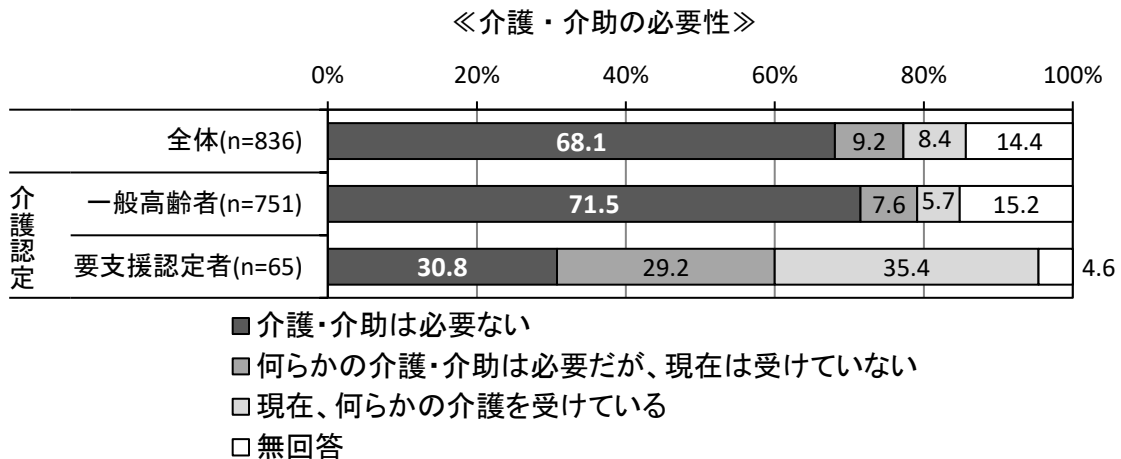
- 1人暮らし
- 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 息子・娘との2世帯
- ▨ その他
- 無回答

(2) 介護・介助の必要性

全体では、「介護・介助は必要ない」が 68.1%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 30.8%と少なく、「現在、何らかの介護を受けている」が 35.4%と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「現在、何らかの介護を受けている」が多くなり、85歳以上では 20.0%を超えている状況です。

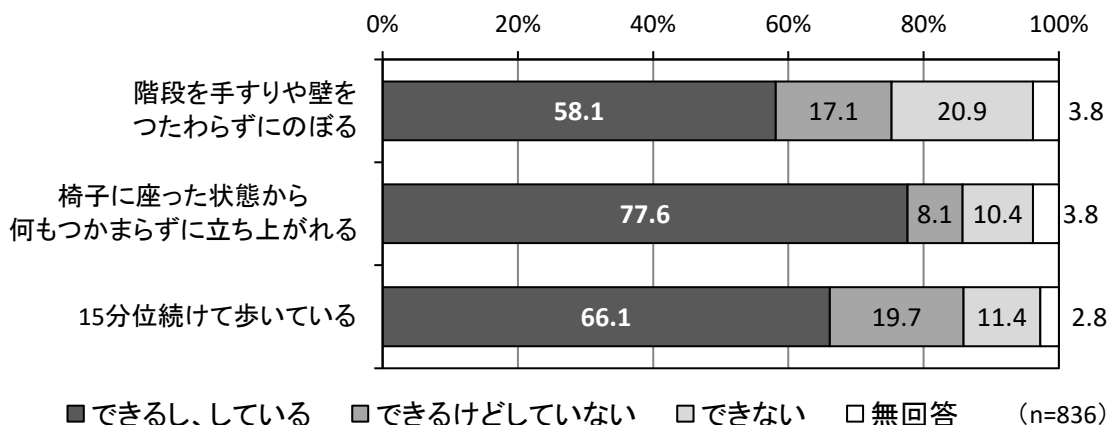
圏域別でみると、八雲地区と熊石地区の間に大きな差異はみられません。



3. からだを動かすことについて

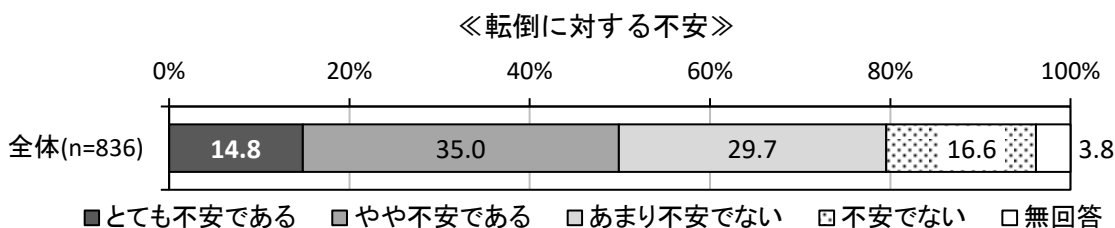
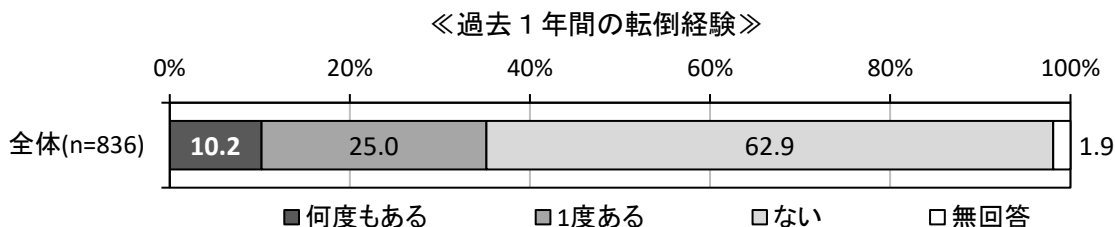
(1) 運動器機能について

運動器の機能低下を診断する設問では、50%以上が「できるし、している」と回答しています。一方、「できない」が一番多いのは「階段を手すりや壁をつたわずにのぼる」で20.9%となっています。



(2) 転倒について

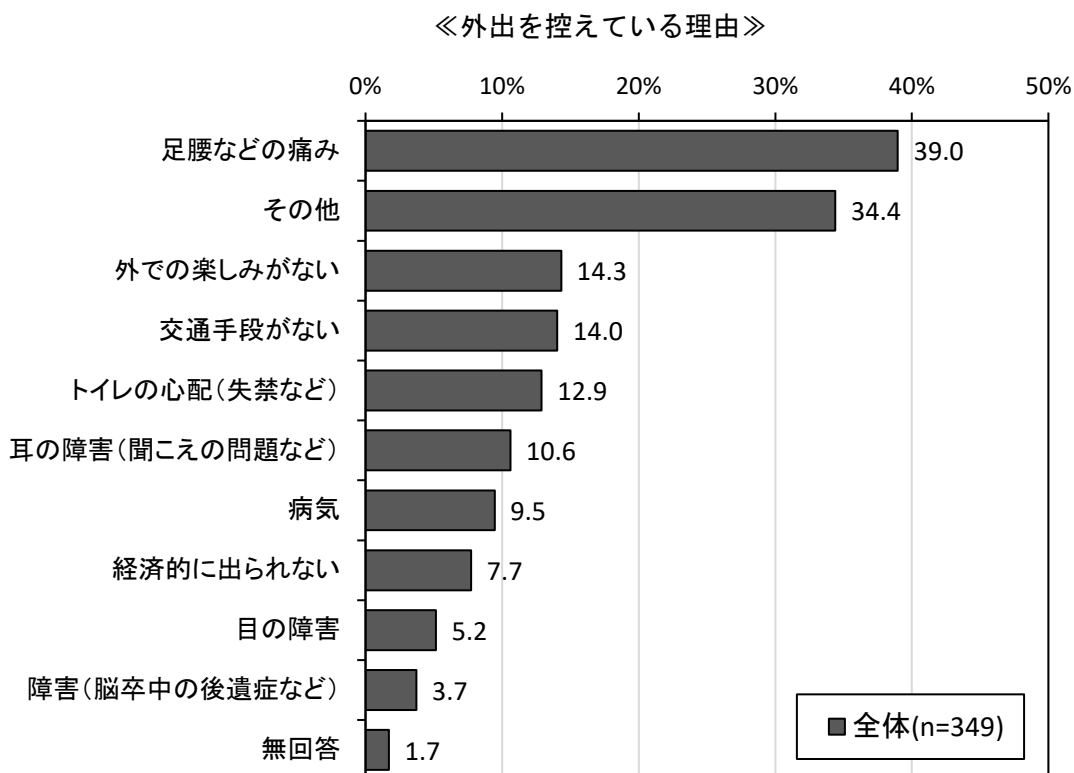
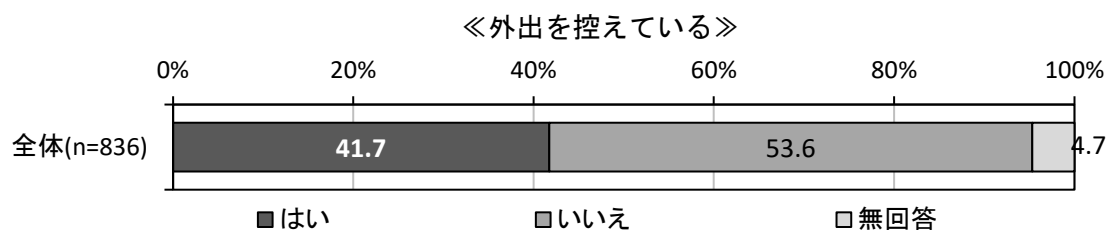
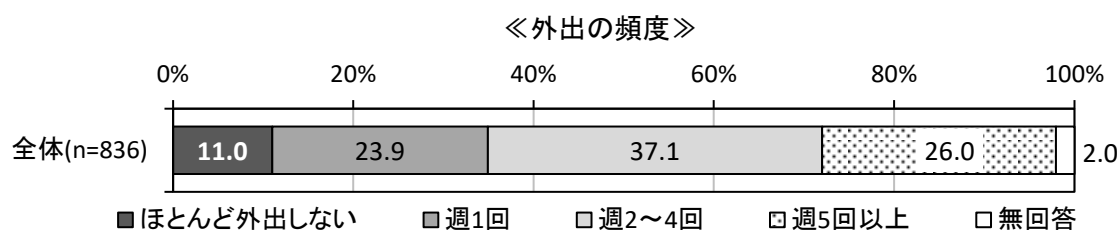
転倒リスクに関連する設問では、過去1年間に1度以上転倒している人が35.2%となっています。また、転倒に対する不安がある人は49.8%で半数に近い状況です。



(3) 閉じこもりについて

外出の頻度は「週2～4回」(37.1%)、「週1回」(23.9%)が上位回答となっている一方、全体の11.0%が「ほとんど外出しない」と回答しています。

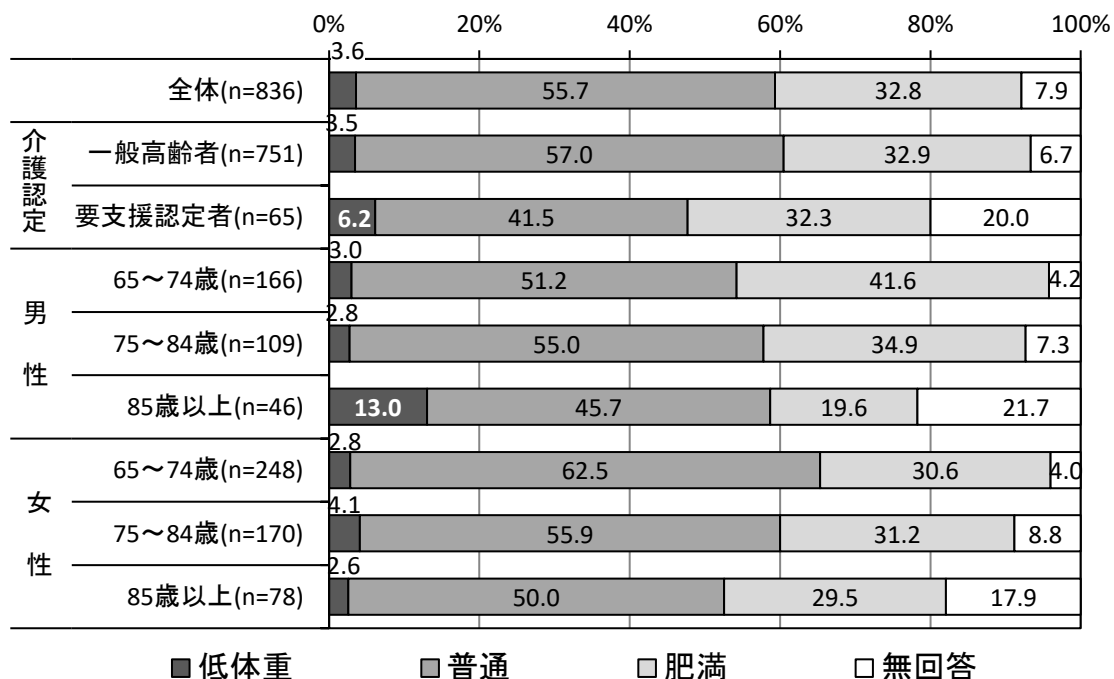
また、全体の41.7%が外出を控えていると回答しており、その理由は「足腰などの痛み」が39.0%を占めています。また、外出を控えている理由として「その他」が34.4%で上位回答となっていますが、そのほとんどは感染症対策による外出の自粛となっています。



4. 食べることについて

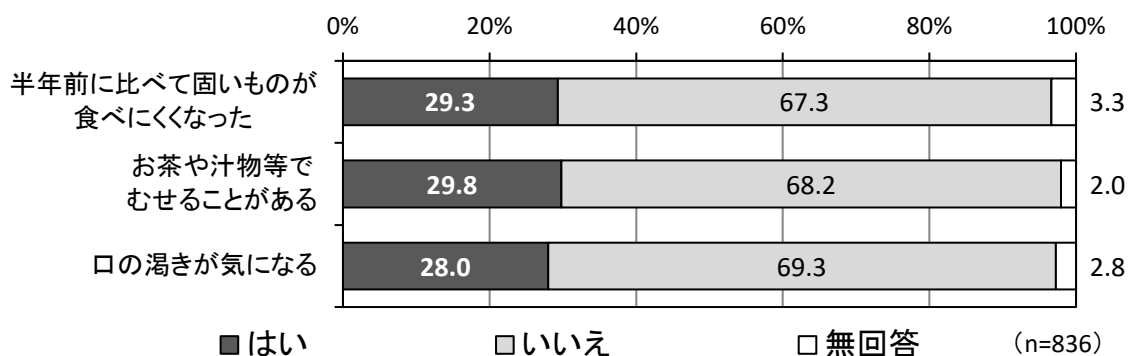
(1) BMI

男女年齢階級別でみると、「低体重」に該当する人は85歳以上の男性が13.0%、「肥満」に該当する人65～74歳の男性が41.6%でそれぞれ他の年齢階級と比べて多くなっています。



(2) 口腔機能について

口腔機能の低下を診断する設問では、いずれの設問においても口腔機能低下の兆候がある人が30%未満となっています。

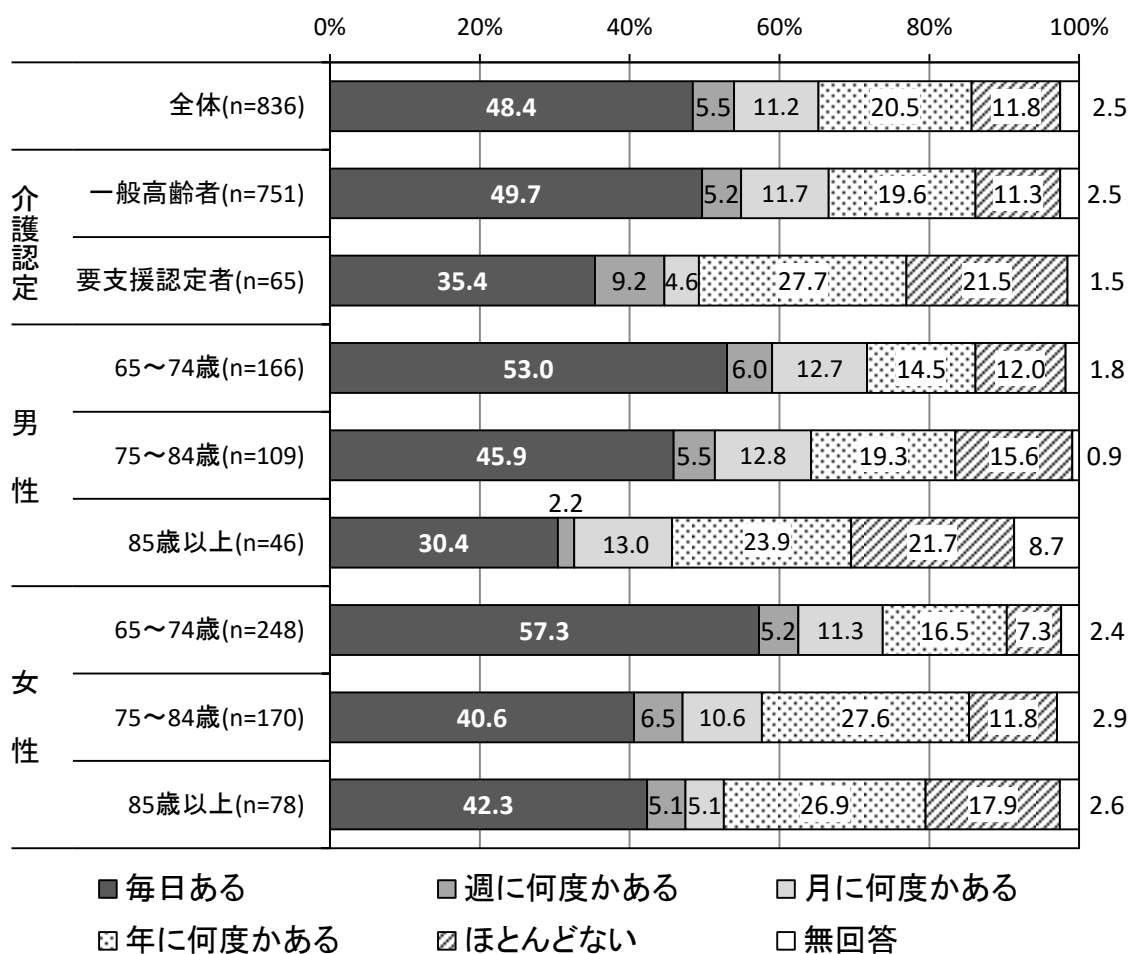


(3) 誰かと食事をする機会

全体でみると、誰かと食事をとる機会が「毎日ある」は48.4%となっている一方、誰かと食事をする機会が少ないと考えられる「年に何度かある」(20.5%)と「ほとんどない」(11.8%)の合計は32.3%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「毎日ある」が35.4%と少なく、「年に何度かある」「ほとんどない」の合計は49.2%と約半数の状況です。

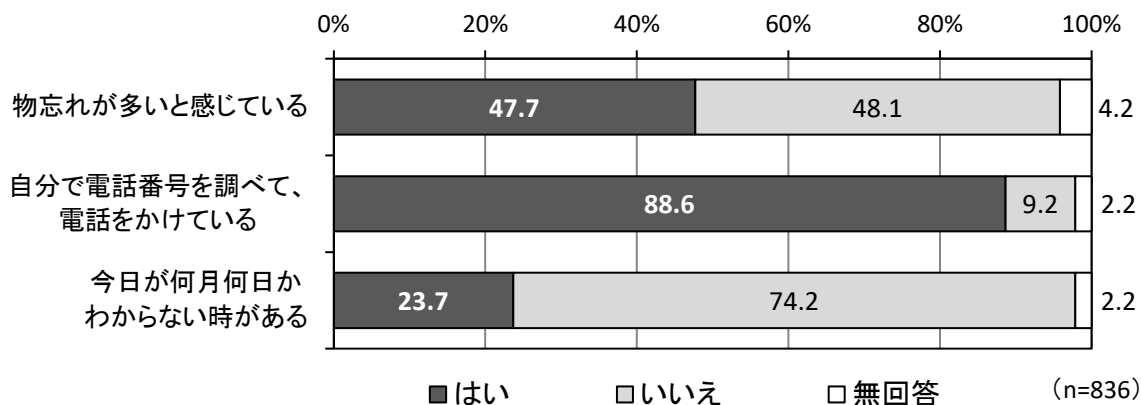
男女年齢階級別でみると、男性は85歳以上で誰かと食事をとる機会が「毎日ある」人が30.4%と非常に少なくなっています。



5. 毎日の生活について

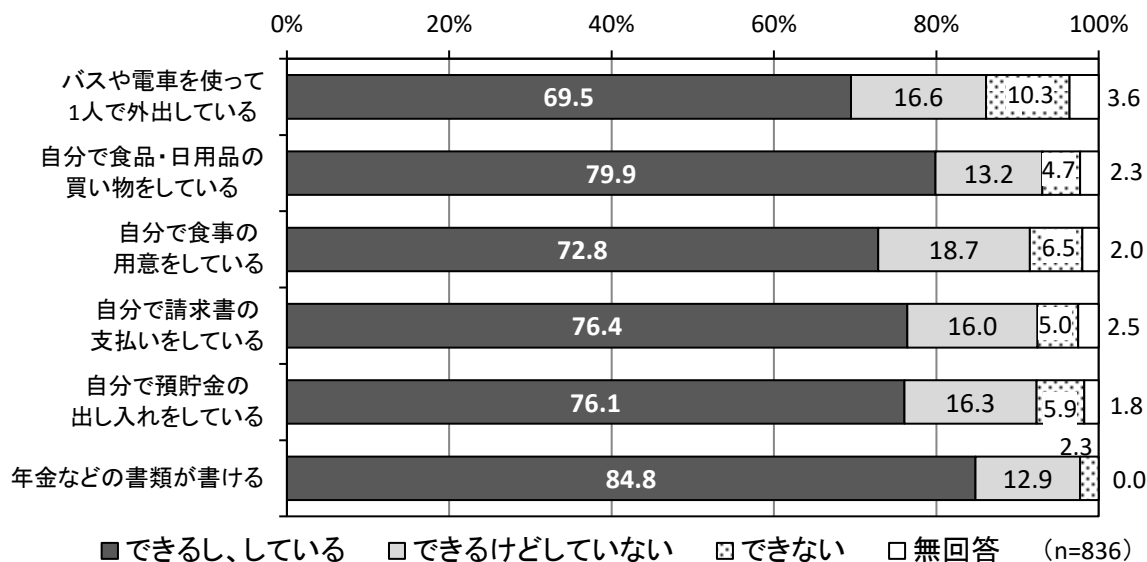
(1) 認知機能について

認知機能の低下を診断する設問では、「自分で電話番号を調べて、電話をかけている」が88.6%を占めているものの、「物忘れが多いと感じている」は47.7%と約半数にのぼります。



(2) 日常生活の動作について

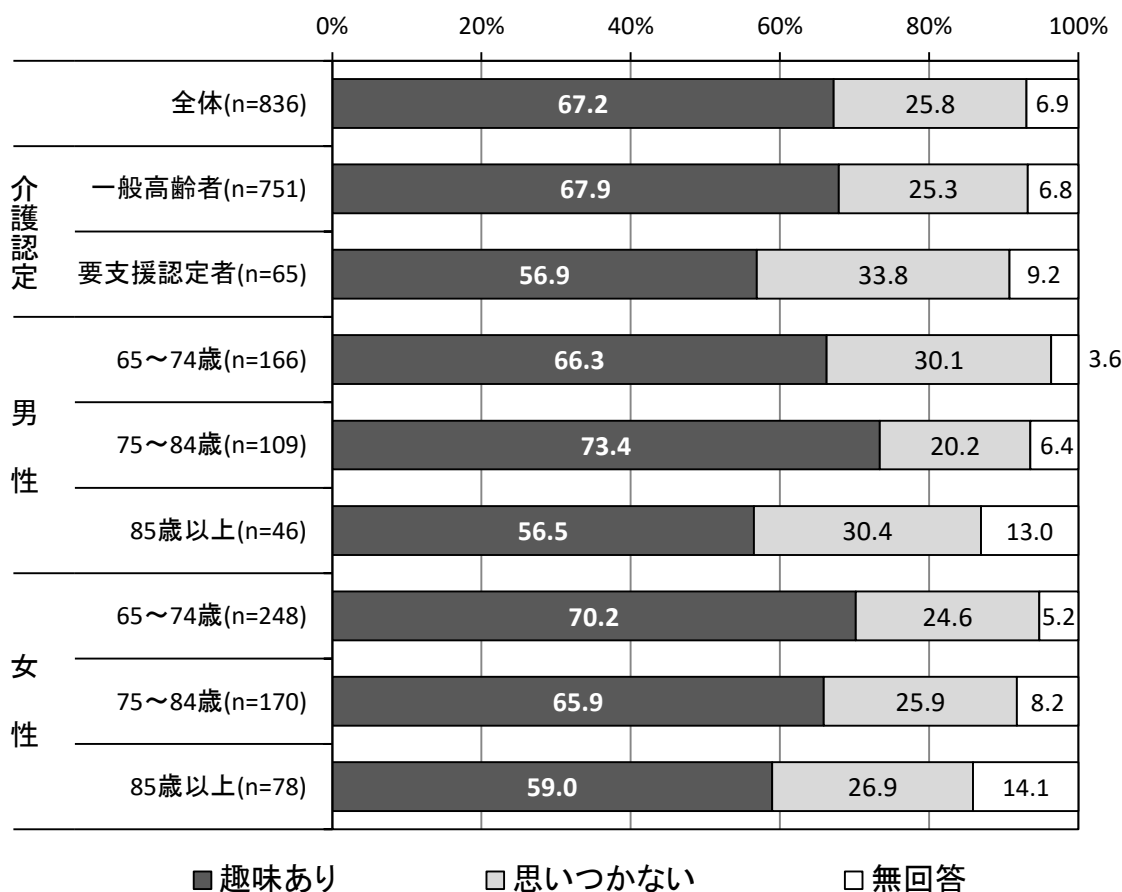
生活機能全般に関する設問では、いずれの設問も65%以上が「できるし、している」と回答しています。一方、「できない」が最も多いのが「バスや電車を使って1人で外出している」で10.3%となっています。



(3) 趣味の有無

全体で見ると、「趣味あり」が 67.2%となっており、要支援認定者はその割合が 56.9%と少なくなっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに 85 歳以上で「趣味あり」が最も少なくなっています。



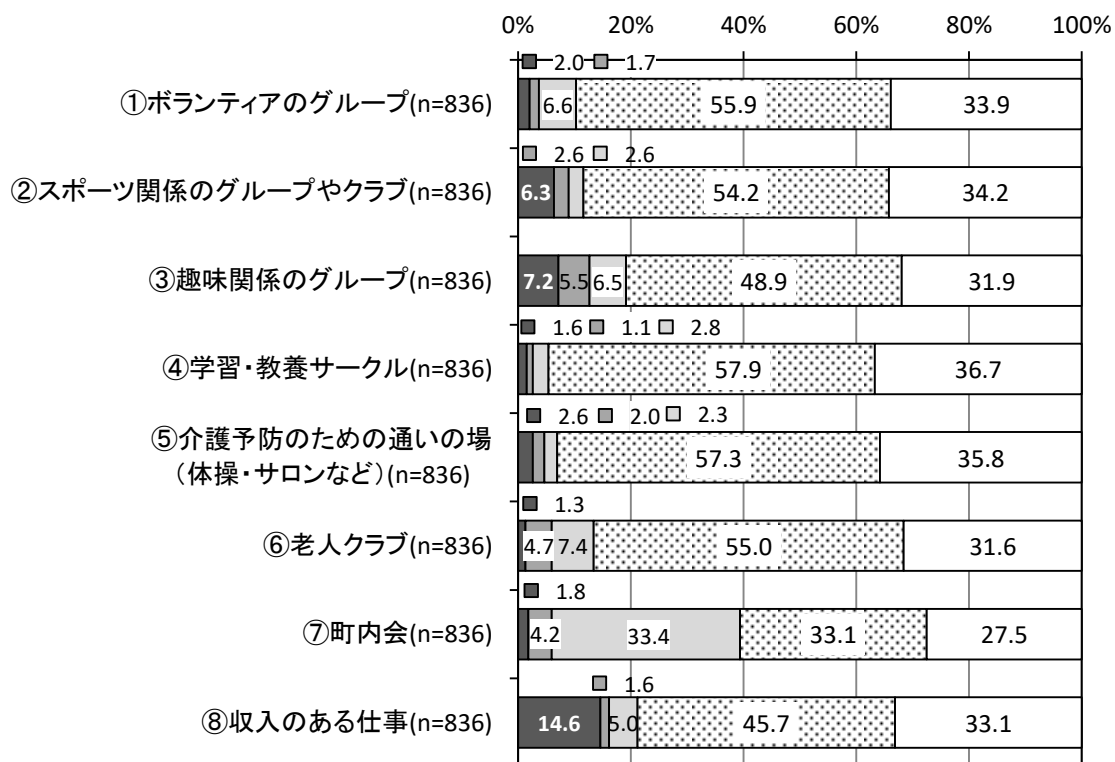
■ 趣味の内容

男性	女性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭菜園、ガーデニング、畑 ・ パークゴルフ、ゴルフ ・ 手芸、編み物 ・ 魚釣り ・ 軽い運動、ウォーキング ・ 読書 ・ 音楽鑑賞、映画鑑賞（TV含む） ・ カラオケ ・ ドライブ ・ 麻雀、パチンコ、競馬 ・ 楽器、囲碁 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手芸、編み物、パッチワーク ・ 家庭菜園、ガーデニング、畑 ・ 読書 ・ 花づくり、花の手入れ ・ パークゴルフ ・ ダンス ・ カラオケ ・ 釣り ・ クロスワード、ナンプレ ・ ウォーキング ・ 書道、茶道 など

6. 地域での活動について

(1) 地域活動等への参加頻度

地域活動等への参加頻度をみると、⑧収入のある仕事、③趣味関係のグループ、②スポーツ関係のグループやクラブは「週1回以上」の割合が多くなっています。
逆に「参加していない」が多い項目は、④学習・教養サークルとなっています。



■週1回以上 ■月1~3回 ■年に数回 □参加していない □無回答

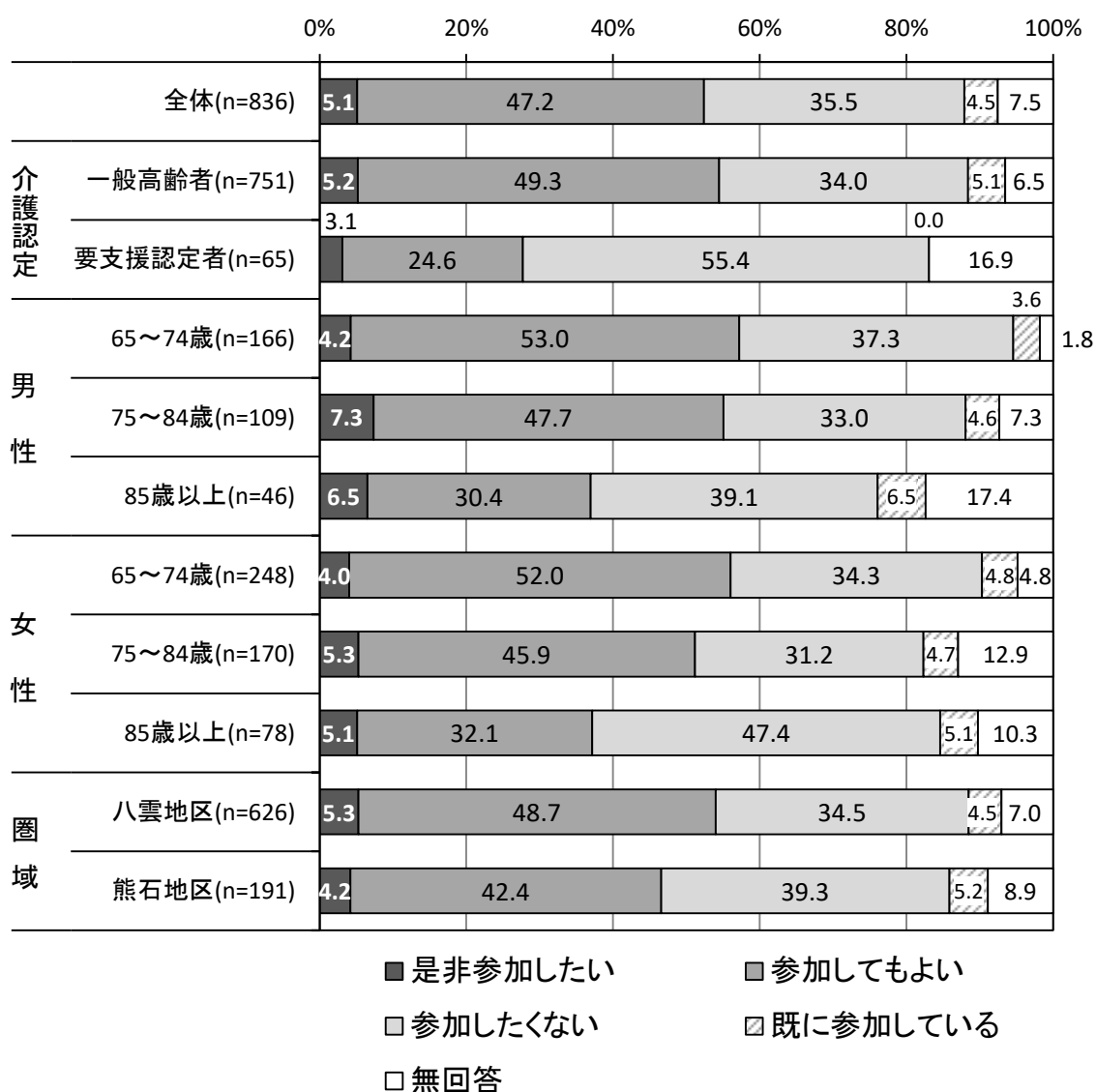
(2) 地域づくり活動への参加者としての参加意向

全体でみると、「是非参加したい」(5.1%)、「参加してもよい」(47.2%)の合計は52.3%で約半数に参加意向がみられます。

介護認定別でみると、一般高齢者は「参加したくない」が34.0%ですが、要支援認定者は55.4%と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて参加意向のある人の割合が少なくなっています。

圏域別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は八雲地区が54.0%、熊石地区が46.6%となっています。

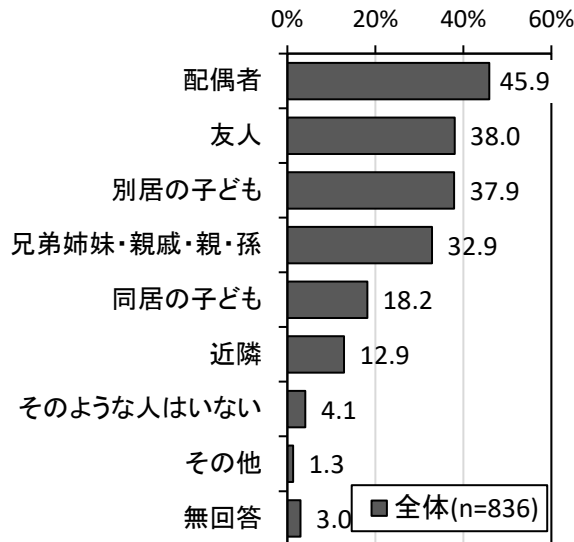


7. たすけあいについて

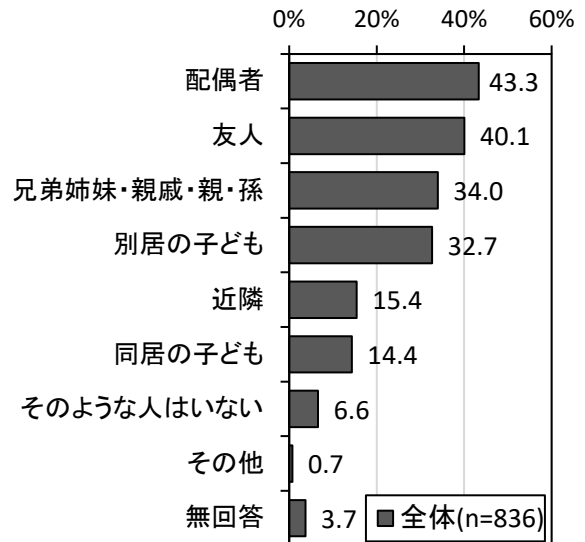
(1) 心配事や愚痴の相談【複数回答】

心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人はともに「配偶者」が約半数で最も多く、次いで「友人」が続いています。

《心配事・愚痴を聞いてくれる人》



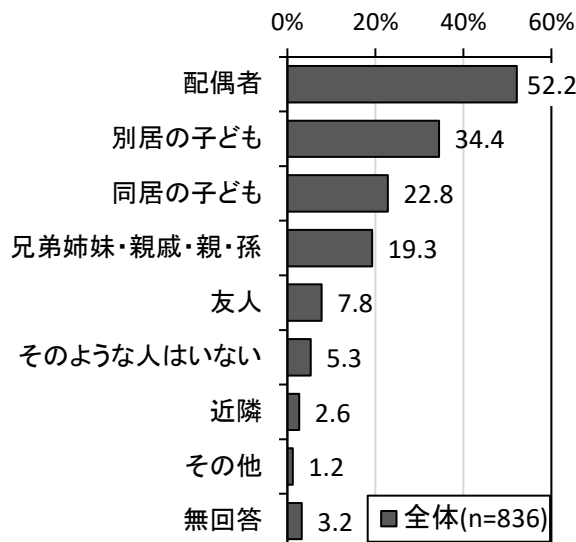
《心配事・愚痴を聞いてあげる人》



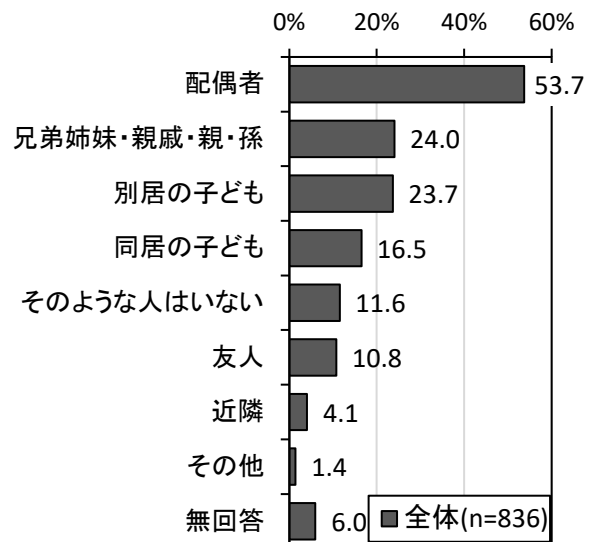
(2) 病気の際の看病【複数回答】

病気で寝込んだ時に看病してくれる人、看病してあげる人はともに「配偶者」が約半数を占めています。

《病気で寝込んだ時に看病してくれる人》



《病気で寝込んだ時に看病してあげる人》

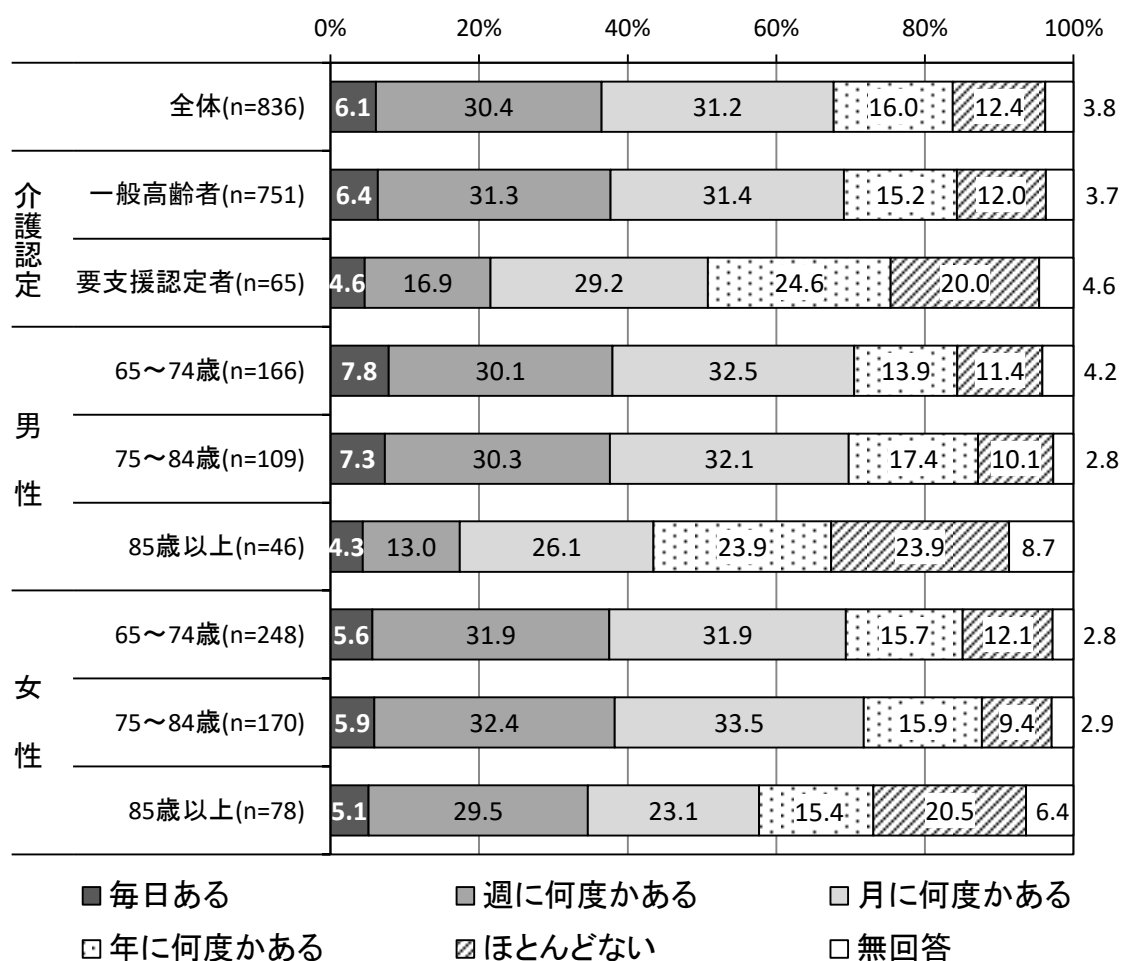


(3) 友人・知人と会う機会

全体で見ると、「月に何度か」以上の頻度で友人・知人と会う機会がある人は 67.7% となっている一方、「ほとんどない」は 12.4% となっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「ほとんどない」が 20.0% となっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに 85 歳未満では「月に何度か」以上の頻度で友人・知人と会う機会がある人の割合は約 70% を占めています。また、「ほとんどない」は男女ともに 85 歳以上が最も多くなっています。



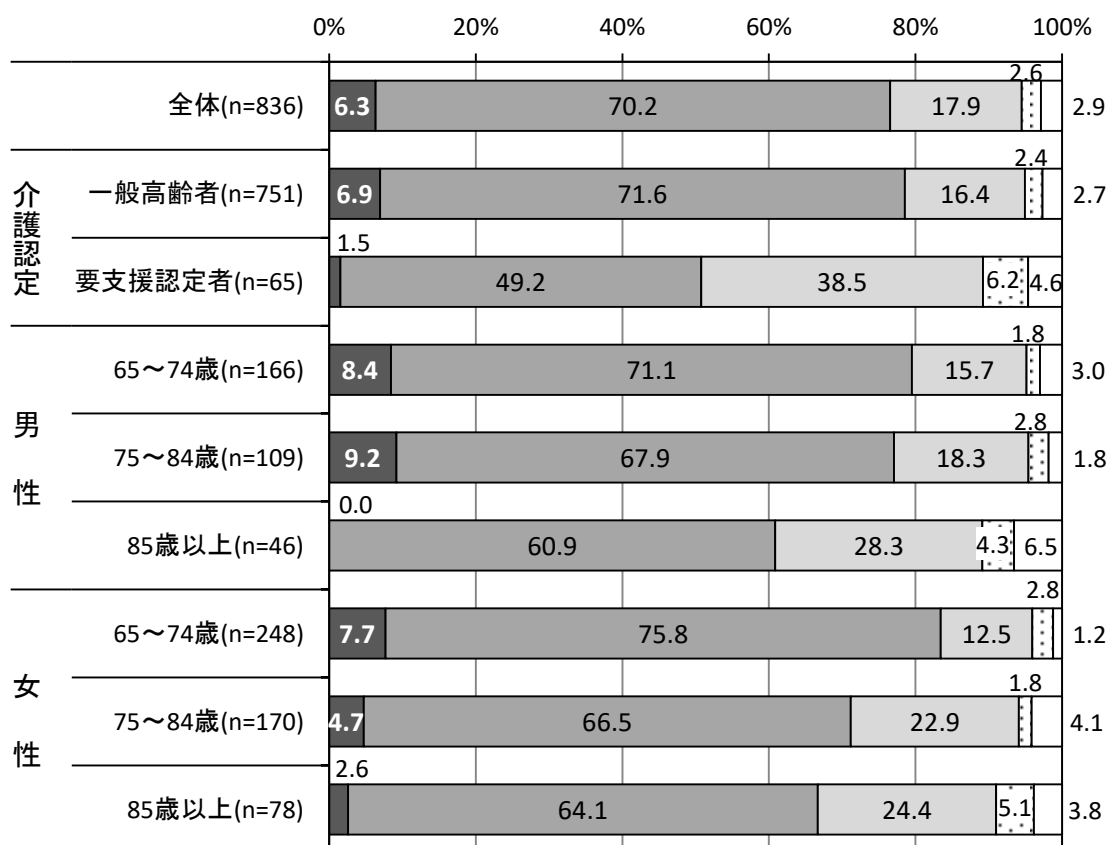
8. 健康について

(1) 現在の健康状態

全体で見ると、「とてもよい」(6.3%)、「まあよい」(70.2%)の合計76.5%が健康状態がよいと回答しています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「とてもよい」と「まあよい」の合計は50.7%で一般高齢者よりも27.8ポイント少なくなっています。

男女年齢階級別に「とてもよい」、「まあよい」の合計をみると、男女ともに年齢が高くなるにつれてその割合が少なくなっています。

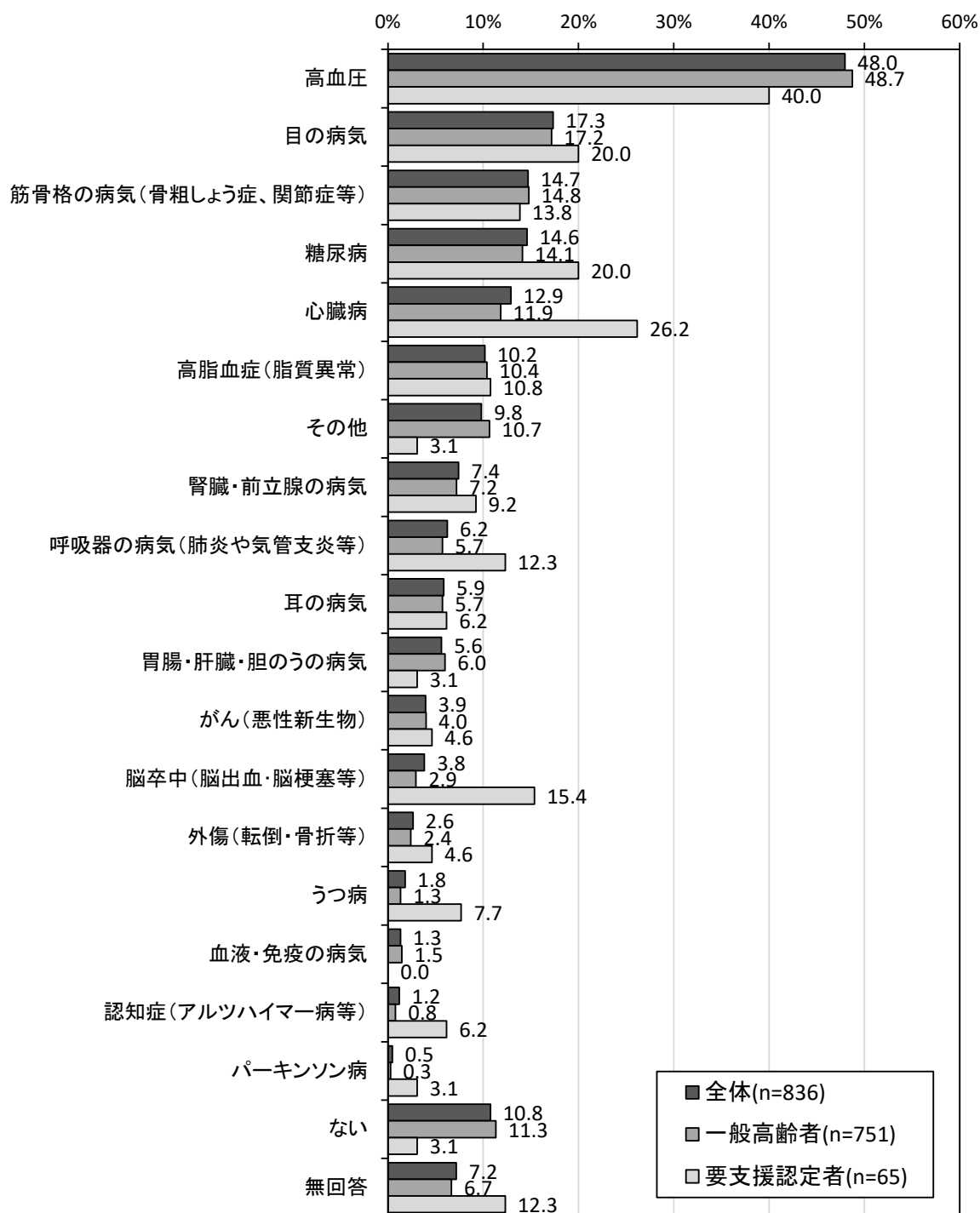


■とてもよい □まあよい □あまりよくない □よくない □無回答

(2) 治療中・後遺症のある病気【複数回答】

全体で見ると、「高血圧」が48.0%で最も多くなっており、次いで「目の病気」(17.3%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(14.7%)が続いています。

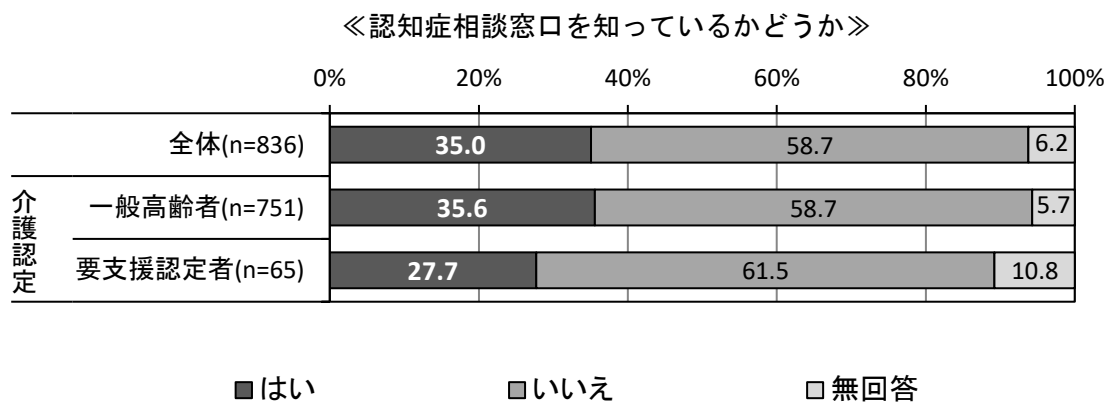
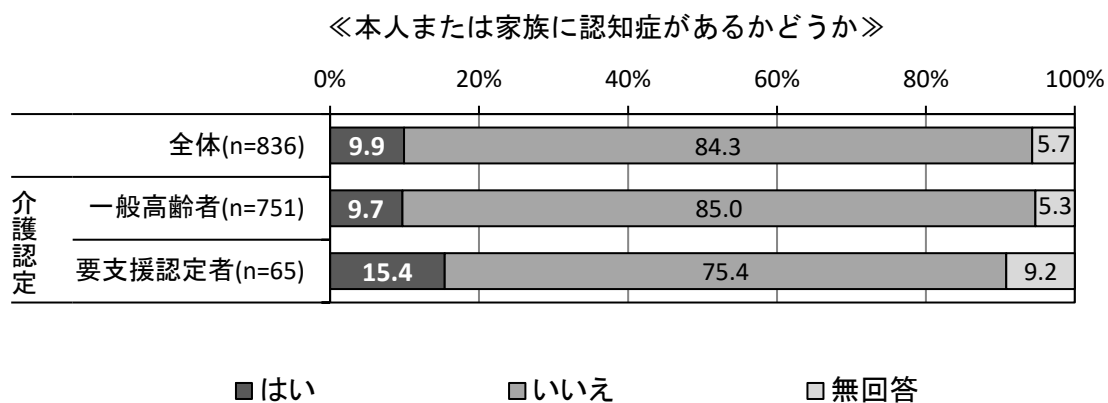
介護認定別で見ても「高血圧」が最も多くなっていますが、要支援認定者は「心臓病」(26.2%)、「糖尿病」(20.0%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(15.4%)も多くなっています。



9. 認知症について

本人または家族における認知症の有無を全体で見ると、認知症の症状がある（家族に症状のある人）がいる人は9.9%で、要支援認定者はその割合が15.4%とやや多くなっています。

認知症相談窓口を知っているかどうかは、全体で見ると「はい」が35.0%となっていますが、要支援認定者はその割合が27.7%とやや少なくなっています。

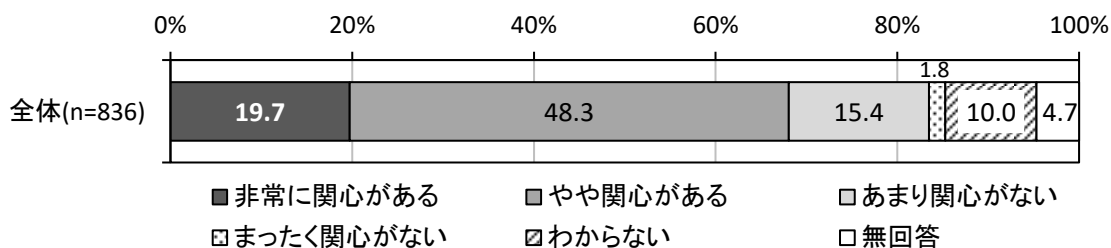


10. 介護予防について

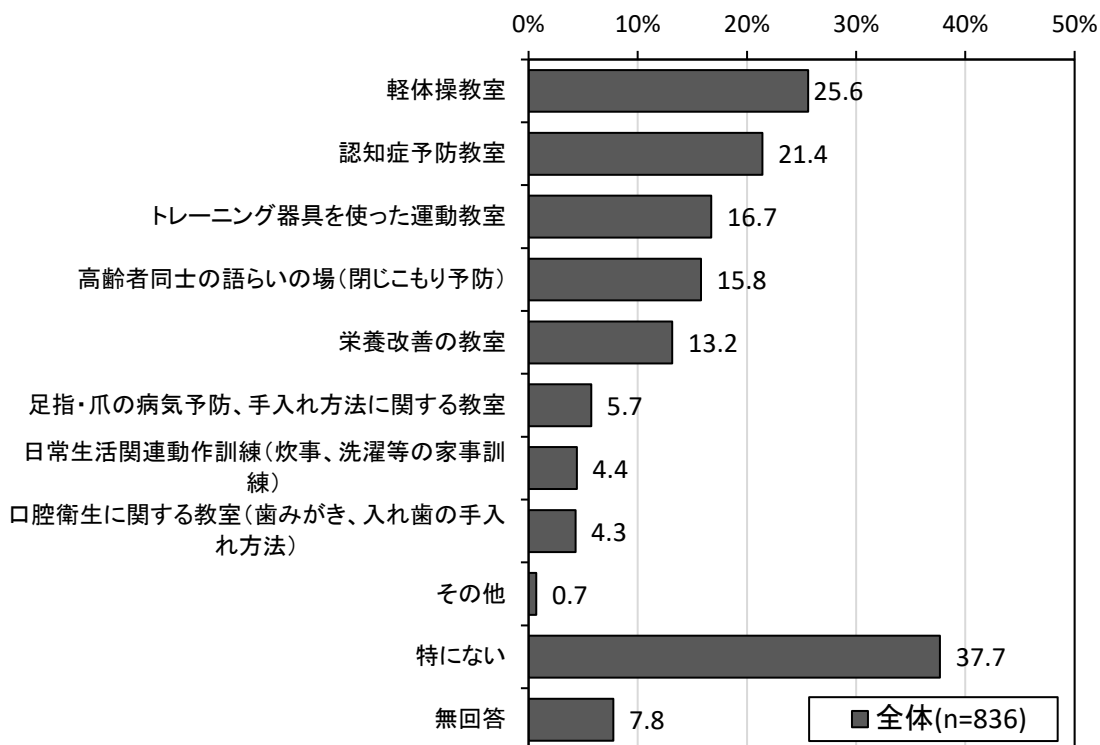
介護予防への関心度は、「非常に関心がある」(19.7%)及び「やや関心がある」(48.3%)の合計68.0%が介護予防に関心がある状況です。

介護予防で参加したい講座は、「軽体操教室」が25.6%で最も多く、次いで「認知症予防教室」(21.4%)、「トレーニング器具を使った運動教室」(16.7%)、が続いています。

《介護予防への関心度》



《介護予防で参加したい講座（複数回答）》



11. 成年後見制度について

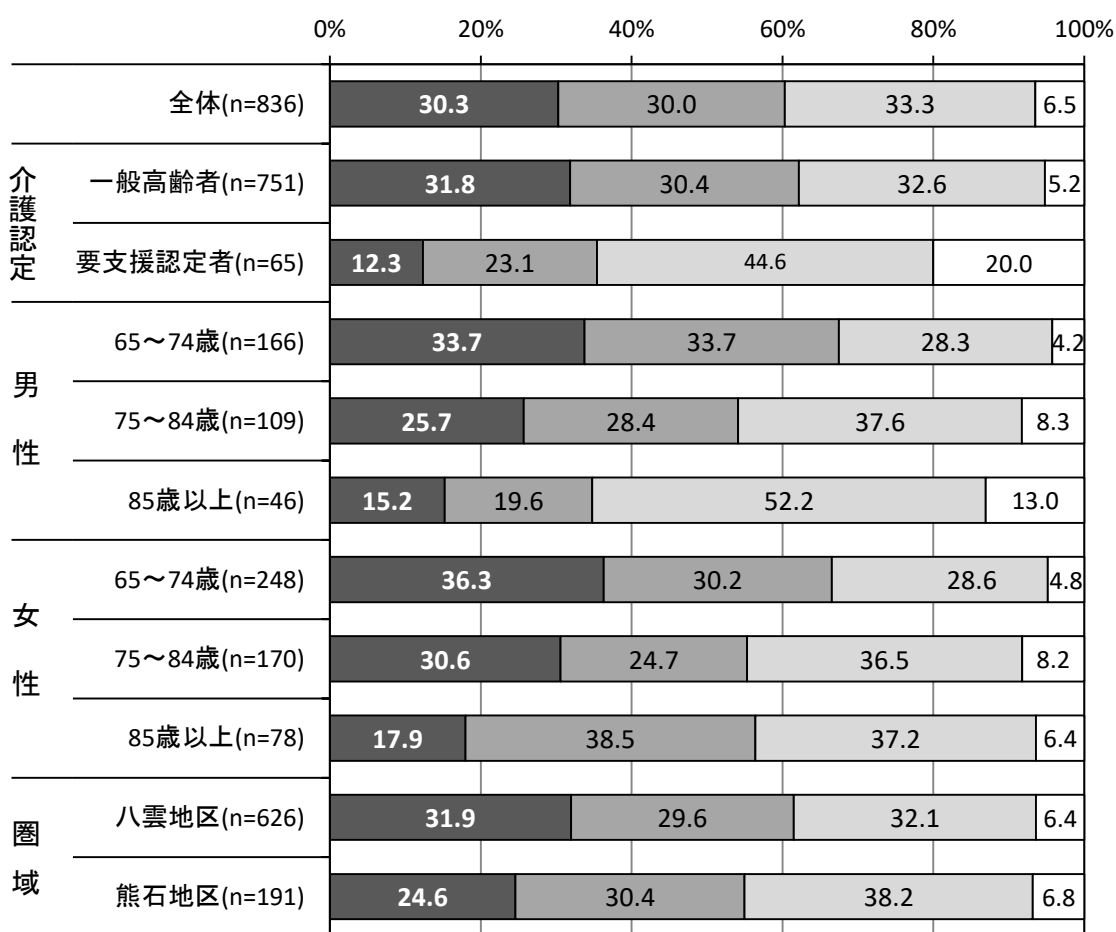
(1) 「成年後見制度」の認知度

全体で見ると、「知っている」(30.3%)、「名前は聞いたことがある」(30.0%)の合計は60.3%で「知らない」は33.3%にとどまっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「知らない」が44.6%で最も多く、一般高齢者と比べて認知度が低い状況です。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「知っている」の割合は少なくなり、85歳以上では20%未満となっています。

圏域別にみると、熊石地区と比べて八雲地区の方がやや認知度は高くなっています。



■ 知っている ■ 名前は聞いたことがある □ 知らない □ 無回答

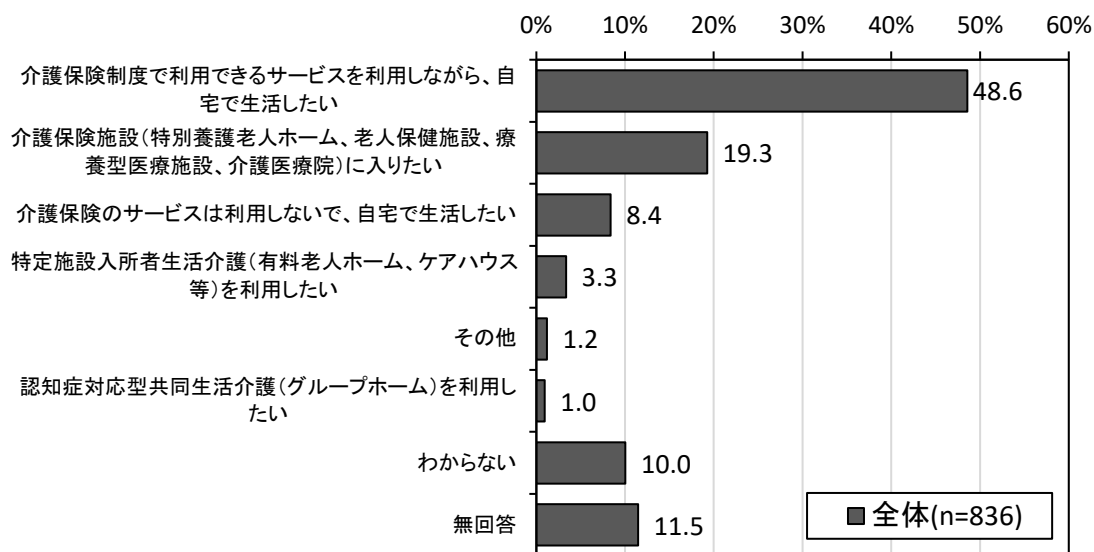
12. 介護保険制度及び保健福祉施策について

(1) 介護が必要な状態になった場合に望む介護

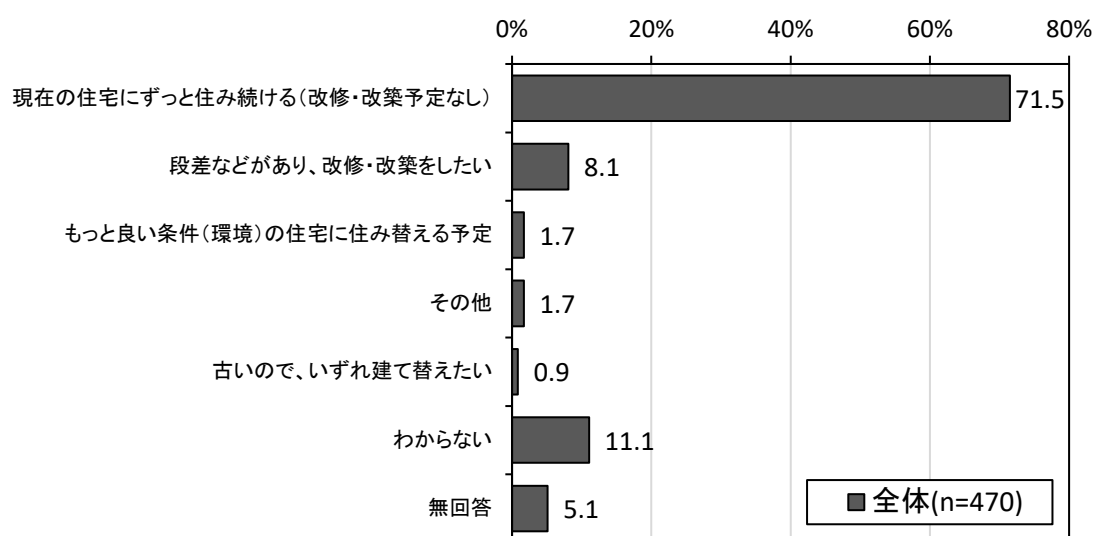
介護が必要な状態になった場合に望む介護は、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が48.6%で最も多く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設、介護医療院）に入りたい」が19.3%が続いています。

在宅介護を希望する人に今後の住まいの予定をたずねたところ、「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が71.5%を占めている状況です。

《介護が必要な状態になった場合に望む介護》



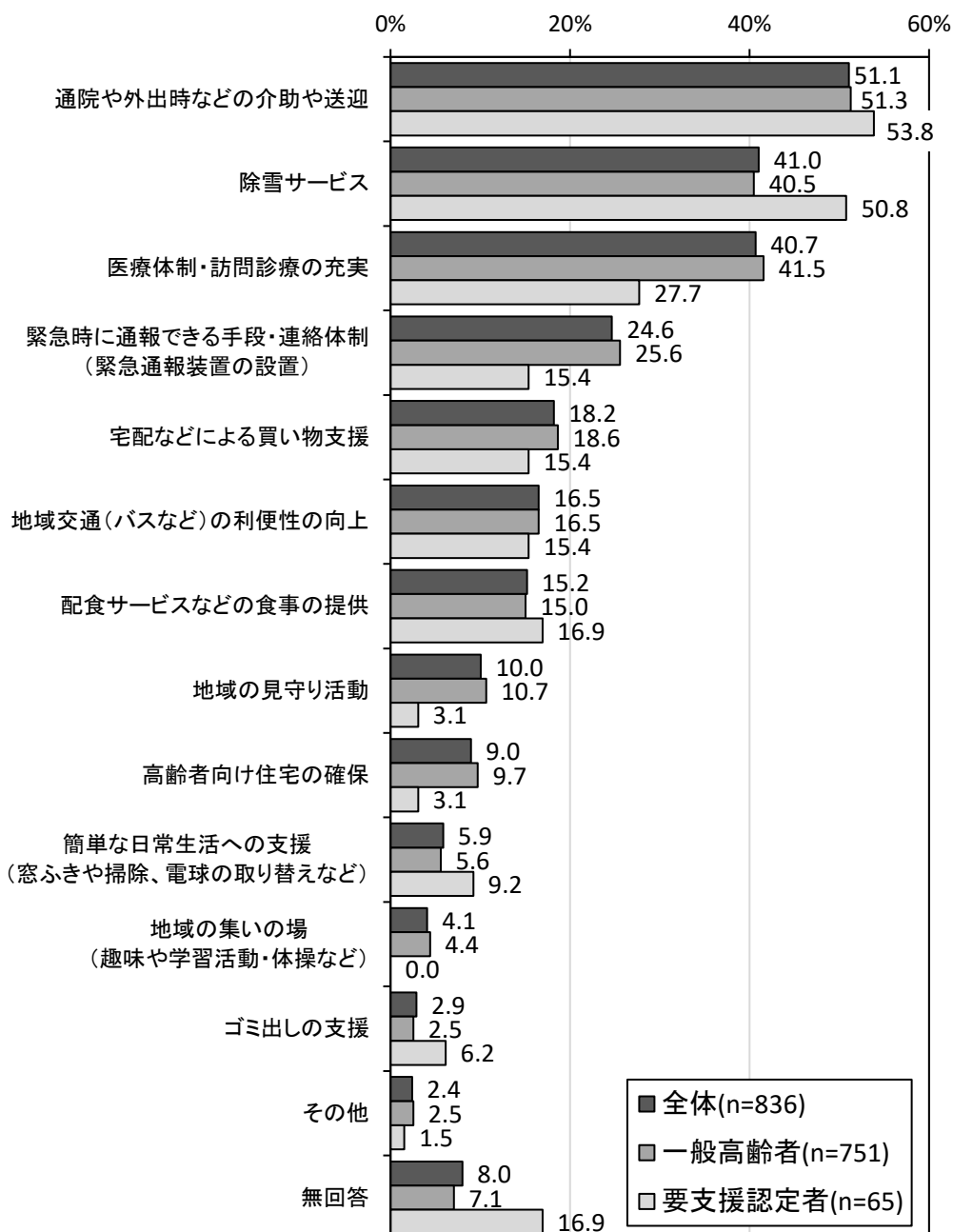
《在宅介護を希望する人の住まいの予定》



(4) 地域や自宅での生活を続けていくために必要な支援・サービス【複数回答】

全体で見ると、「通院や外出時などの介助や送迎」が 51.1%で最も多く、次いで「除雪サービス」(41.0%)、「医療体制・訪問診療の充実」(40.7%)と続いています。

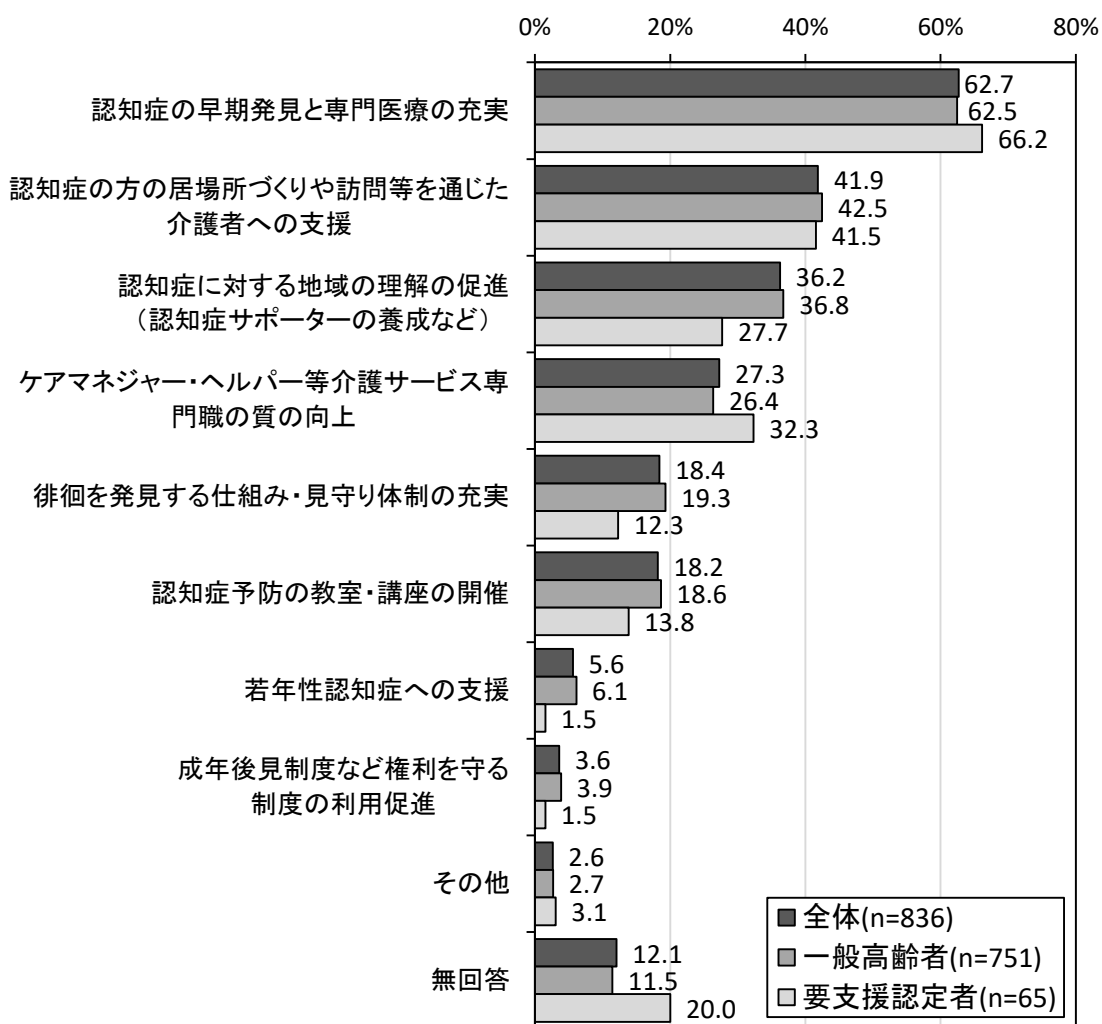
介護認定別で見ても全体とほぼ同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「除雪サービス」が 50.8%で、一般高齢者と比べて 10.3 ポイント多くなっています。



(5) 認知症対策を進める上で重点を置くべきこと【複数回答】

全体で見ると、「認知症の早期発見と専門医療の充実」62.7%で最も多く、次いで「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(41.9%)、「認知症に対する地域の理解の促進（認知症サポーターの養成など）」(36.2%)と続いています。

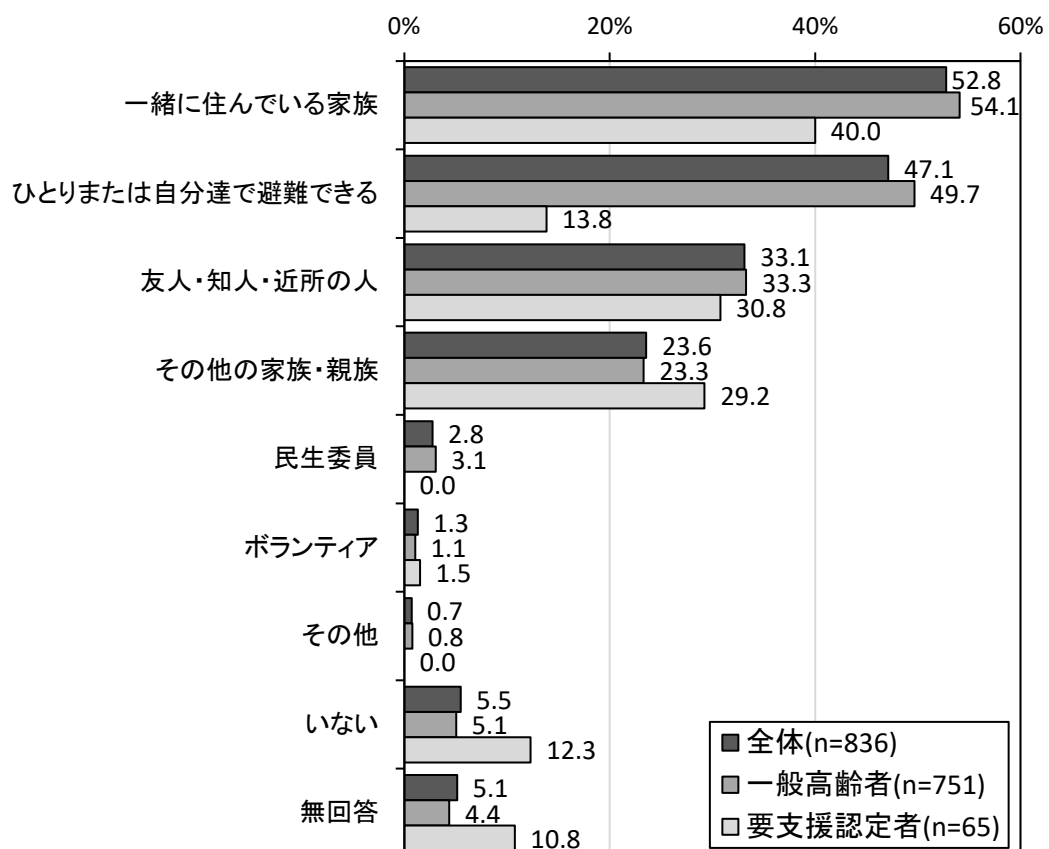
介護認定別で見ても、全体とほぼ同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「ケアマネジャー・ヘルパー等介護サービス専門職の質の向上」(32.3%)が一般高齢者よりも5.9ポイント多くなっています。



(6) 災害発生時、避難する際に頼れる人がいるかどうか

全体で見ると、「一緒に住んでいる家族」が 52.8%で最も多く、次いで「ひとりまたは自分達で避難できる」(47.1%)、「友人・知人・近所の人」(33.1%)と続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「ひとりまたは自分達で避難できる」が 13.8%で一般高齢者比べて 35.9 ポイント少なくなっています。

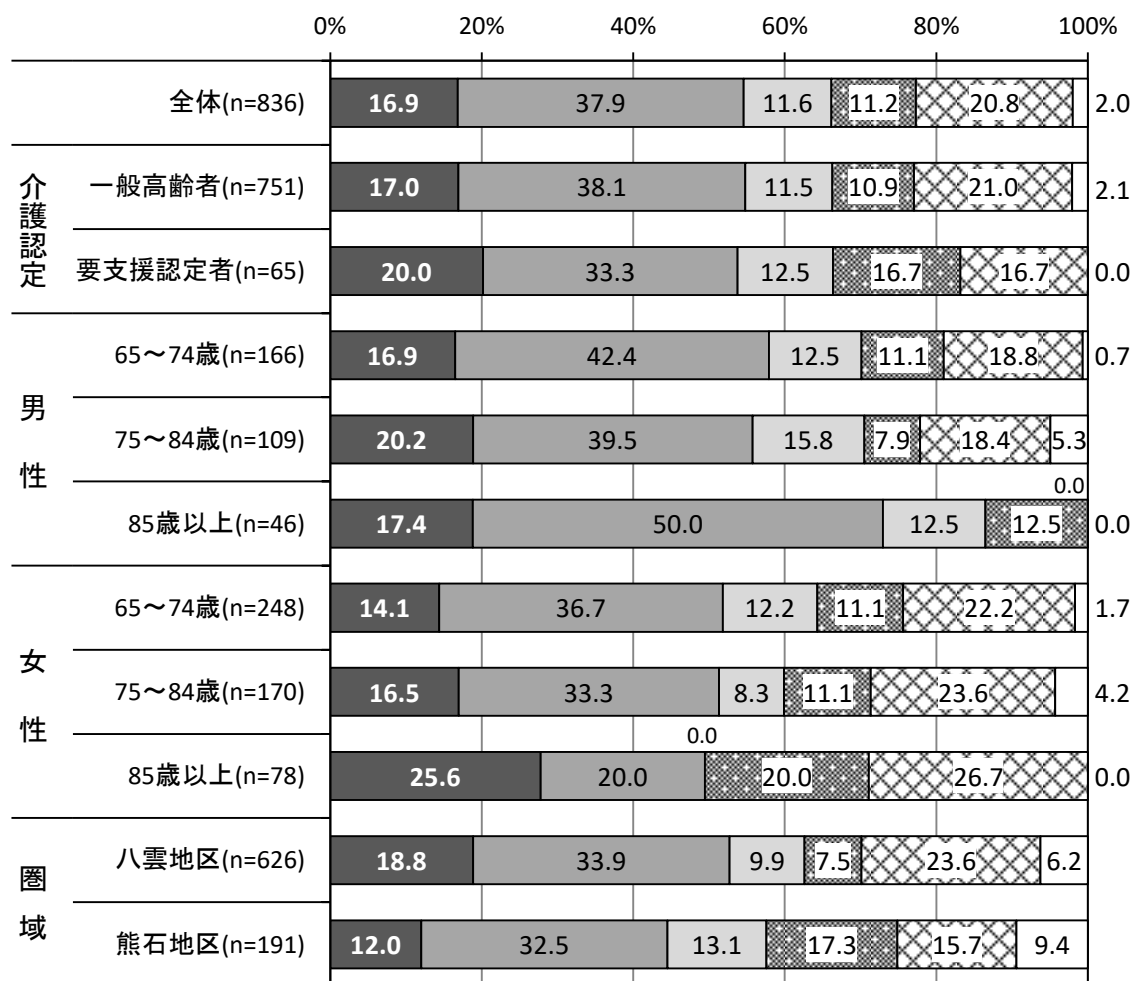


(7) 高齢者にとっての町の暮らしやすさ

全体でみると、「暮らしやすいと思う」(16.9%)、「どちらかといえばそう思う」(37.9%)は合計54.8%で、暮らしやすいと回答している人が半数以上となっています。

男女年齢階級別に「暮らしやすいと思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、85歳以上の男性は67.4%と最も多くなっています。また、女性は「暮らしやすいと思う」の割合が25.6%で他の年齢階級と比べて多くなっています。

圏域別に「暮らしやすいと思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、八雲地区は52.7%で熊石地区よりも8.2ポイント多くなっています。



- 暮らしやすいと思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 暮らしやすいとは思わない
- わからない
- 無回答

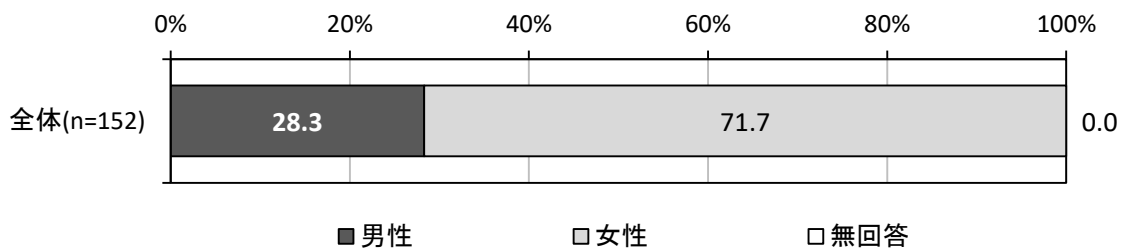
Ⅲ. 在宅介護実態調査結果

1. 調査対象者の属性

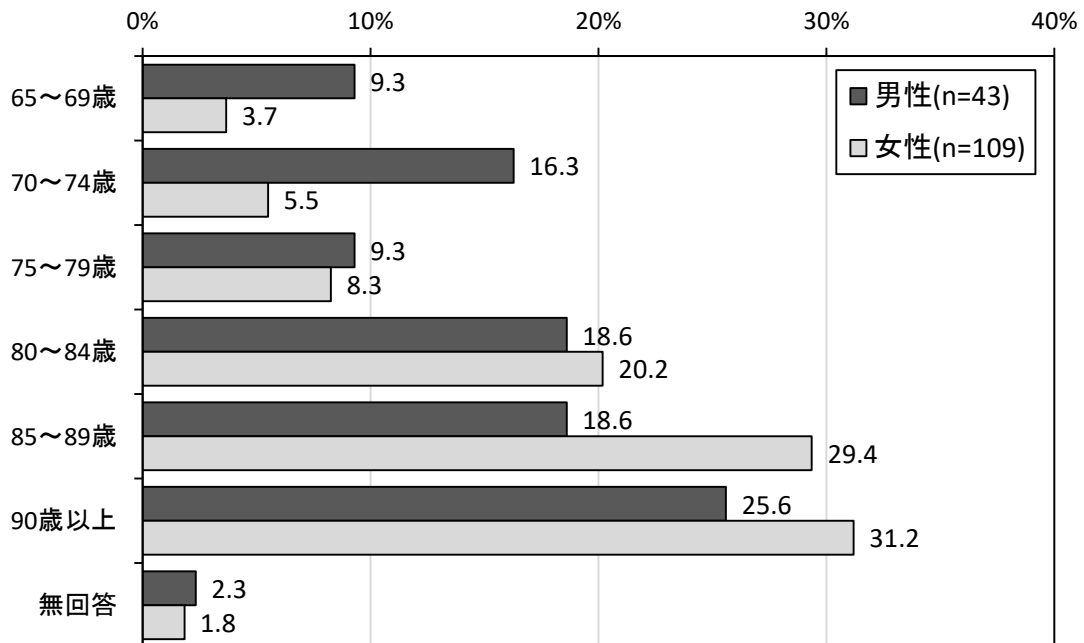
調査対象者の属性は、男性が 28.3%、女性が 71.7%で、年齢は「90 歳以上」が最も多くなっています。

要介護度は「要介護 1」が 46.7%で最も多く、日常生活圏域は八雲地区が 66.4%、熊石地区が 33.6%となっています。

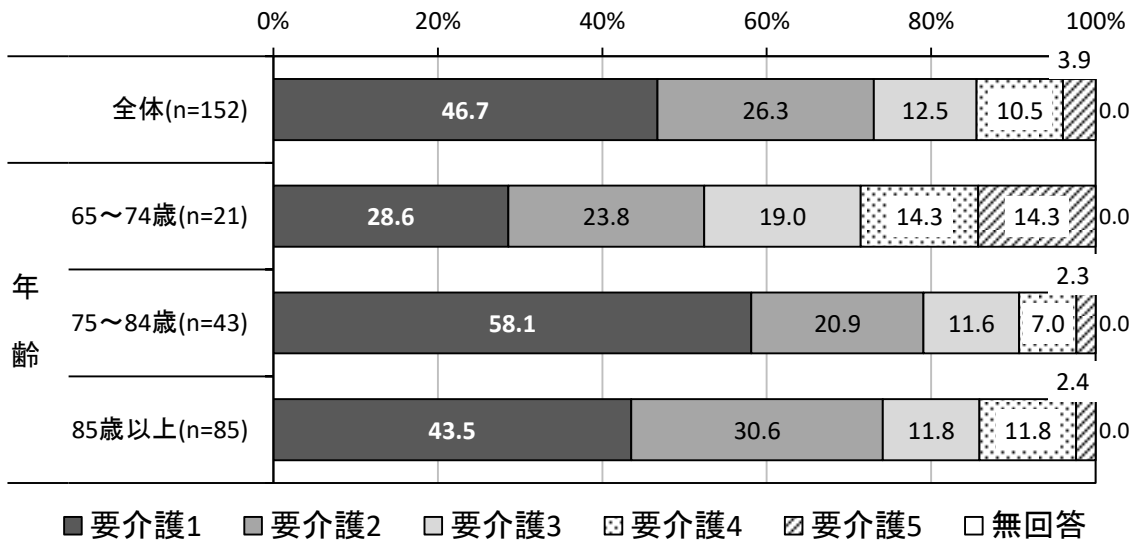
《調査対象者の性別》



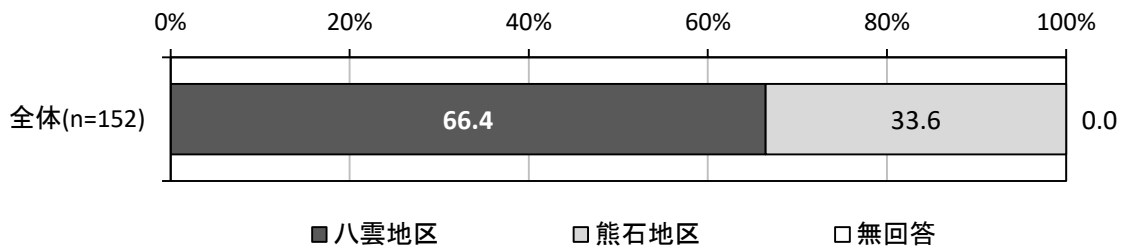
《調査対象者の年齢》



《調査対象者の要介護度》



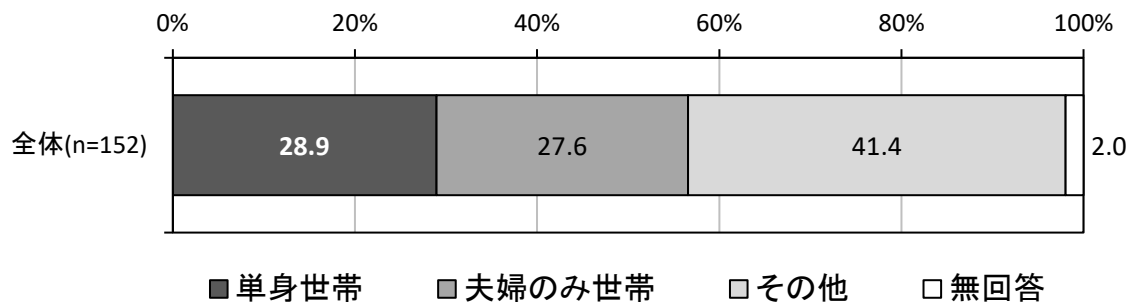
《調査対象者の日常生活圏域》



2. 在宅で介護されている方の状況について

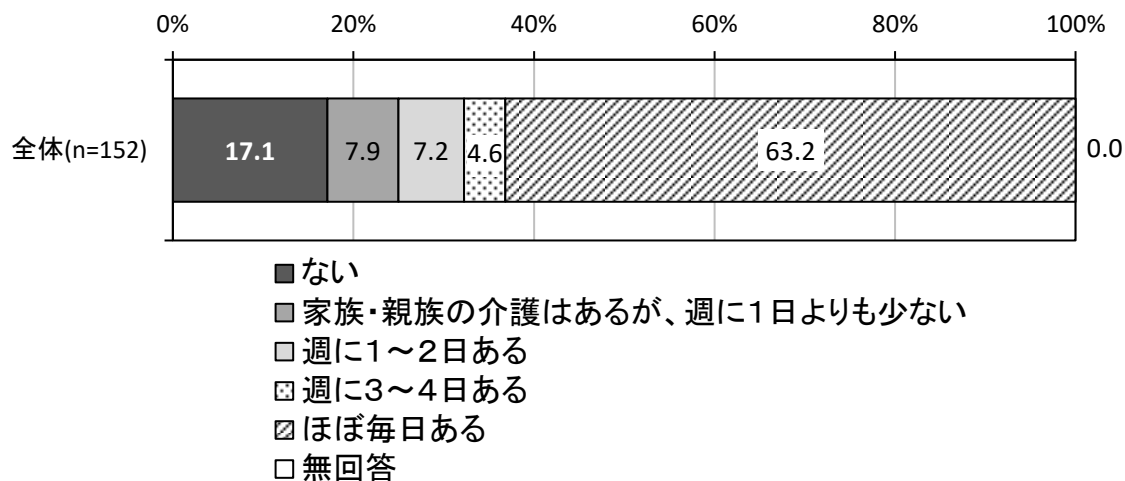
(1) 世帯類型

全体で見ると、「その他」が41.4%で最も多くなっており、家族が同居で介護を行っている2世代世帯が多いと考えられます。次いで、「単身世帯」(28.9%)、「夫婦のみ世帯」(27.6%)の順で続いています。



(2) 家族等による介護の頻度

全体で見ると、「ほぼ毎日ある」が63.2%で最も多く、次いで「ない」(17.1%)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」(7.9%)が続いています。



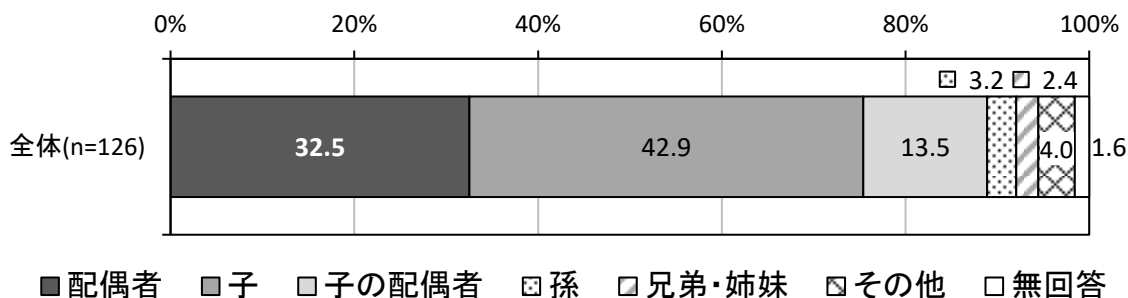
(3) 主な介護者の属性

主な介護者と本人との関係は、「子」が42.9%で最も多く、次いで「配偶者」が32.5%で続いています。

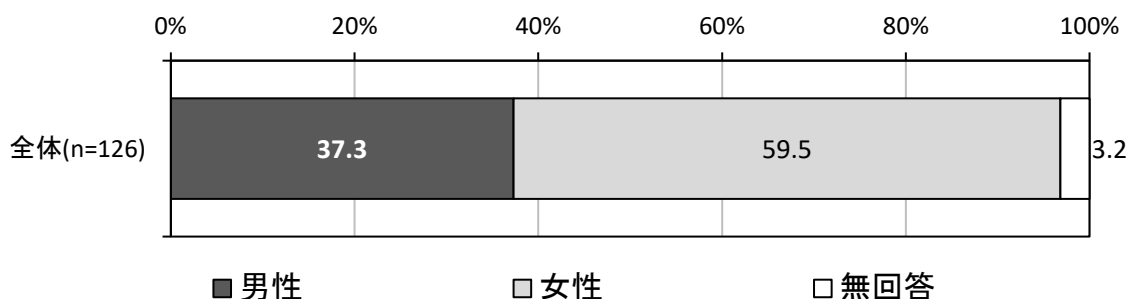
主な介護者の性別は、「女性」が59.5%を占めており、「男性」は37.3%となっています。

主な介護者の年齢は、「60代」が30.2%で最も多く、次いで「70代」が19.8%で続いています。

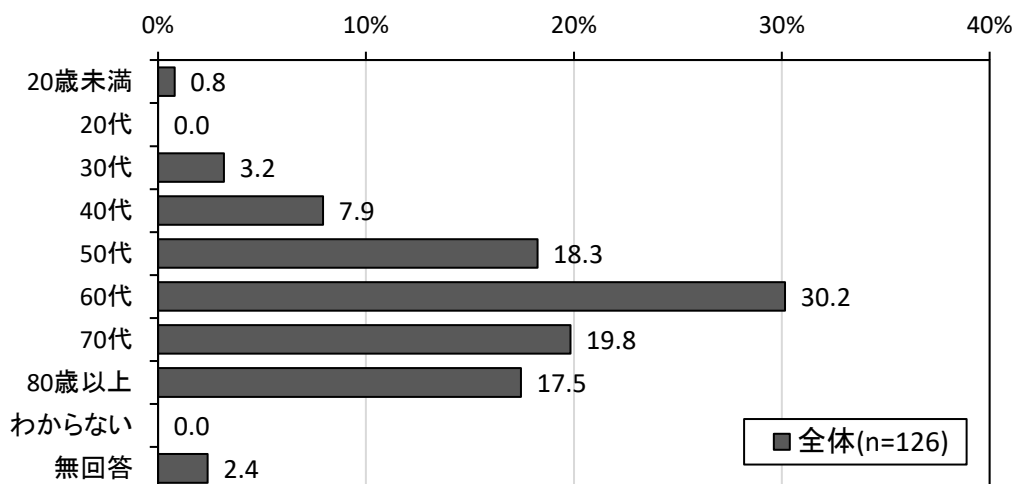
《主な介護者の本人との関係》



《主な介護者の性別》

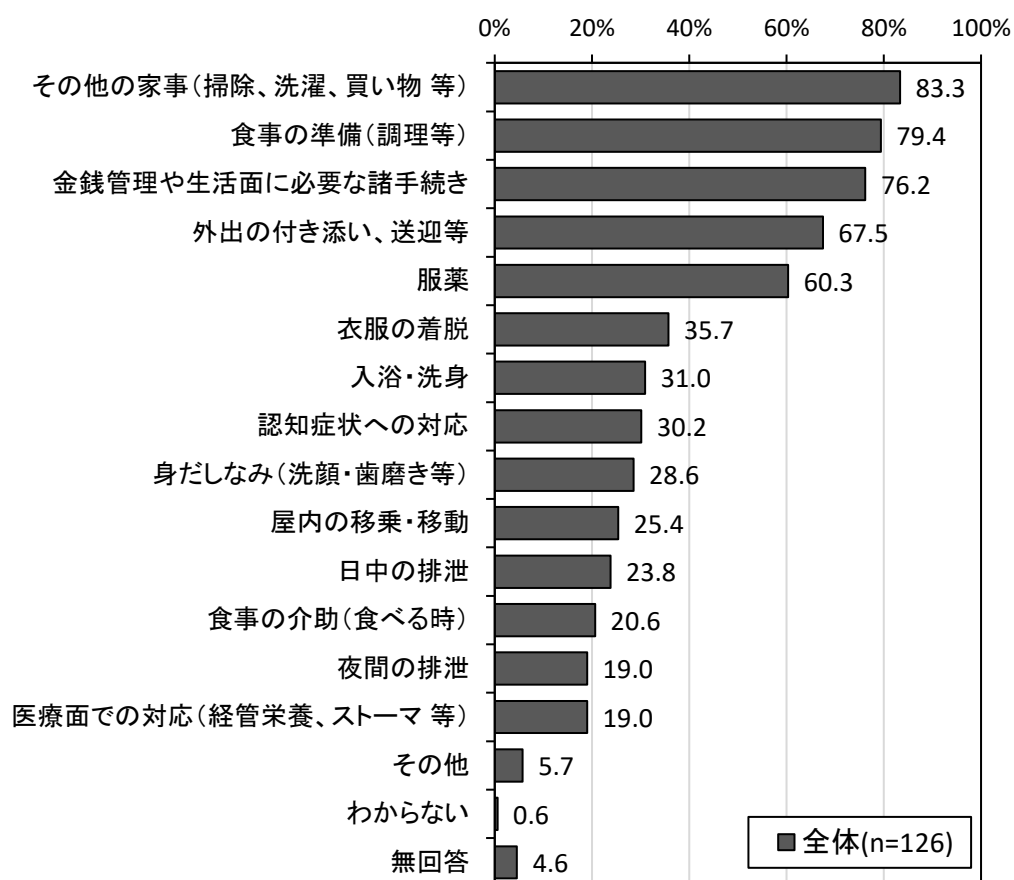


《主な介護者の年齢》



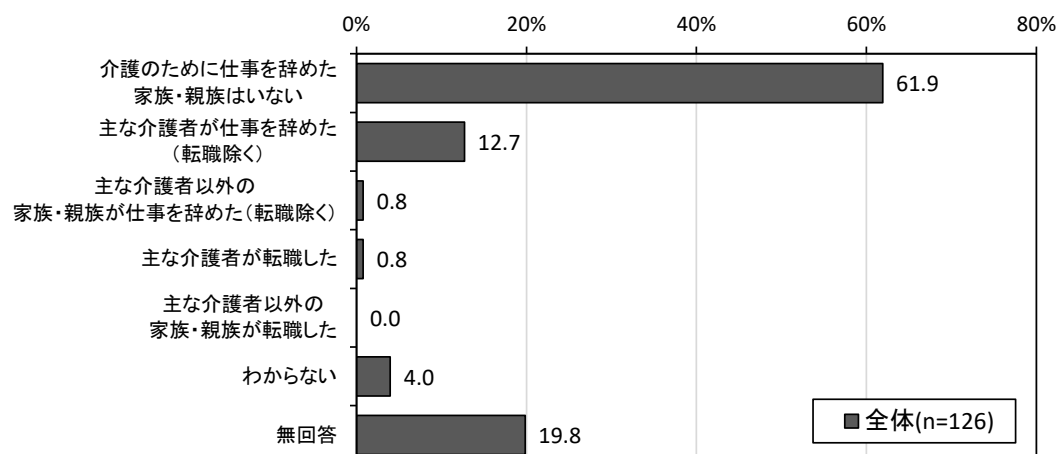
(4) 主な介護者が行っている介護【複数回答】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 83.3%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」（79.4%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（76.2%）が続いています。



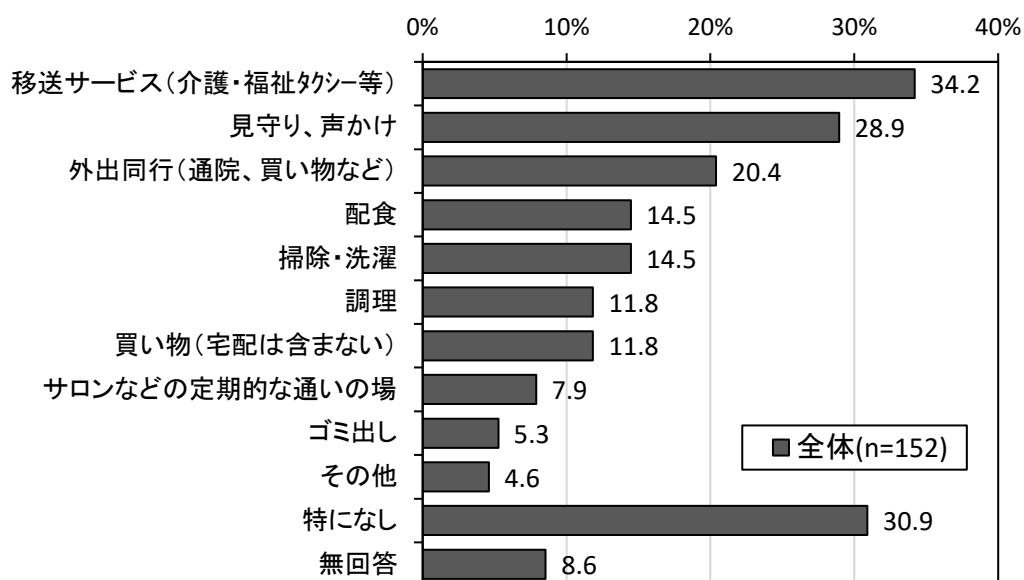
(5) 介護のための離職の有無【複数回答】

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 61.9%で最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（12.7%）及び「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（0.8%）の合計は 13.5%となっています。



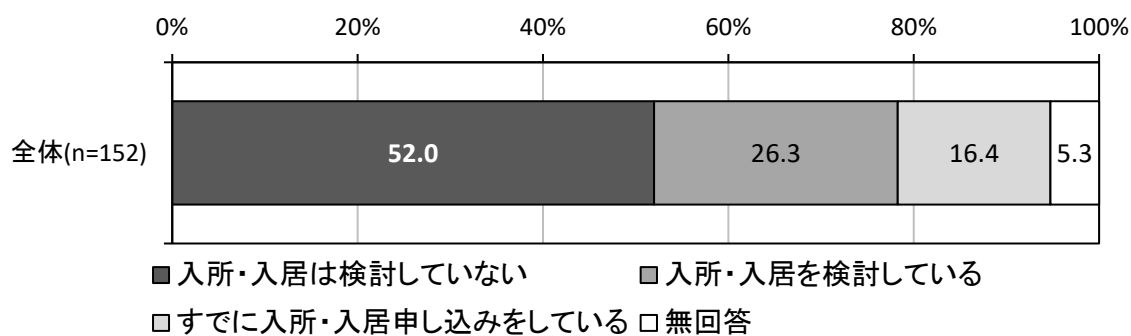
(6) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス【複数回答】

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（34.2%）、「見守り、声かけ」（28.9%）、「外出動向（通院、買い物など）」（20.4%）が上位回答となっています。



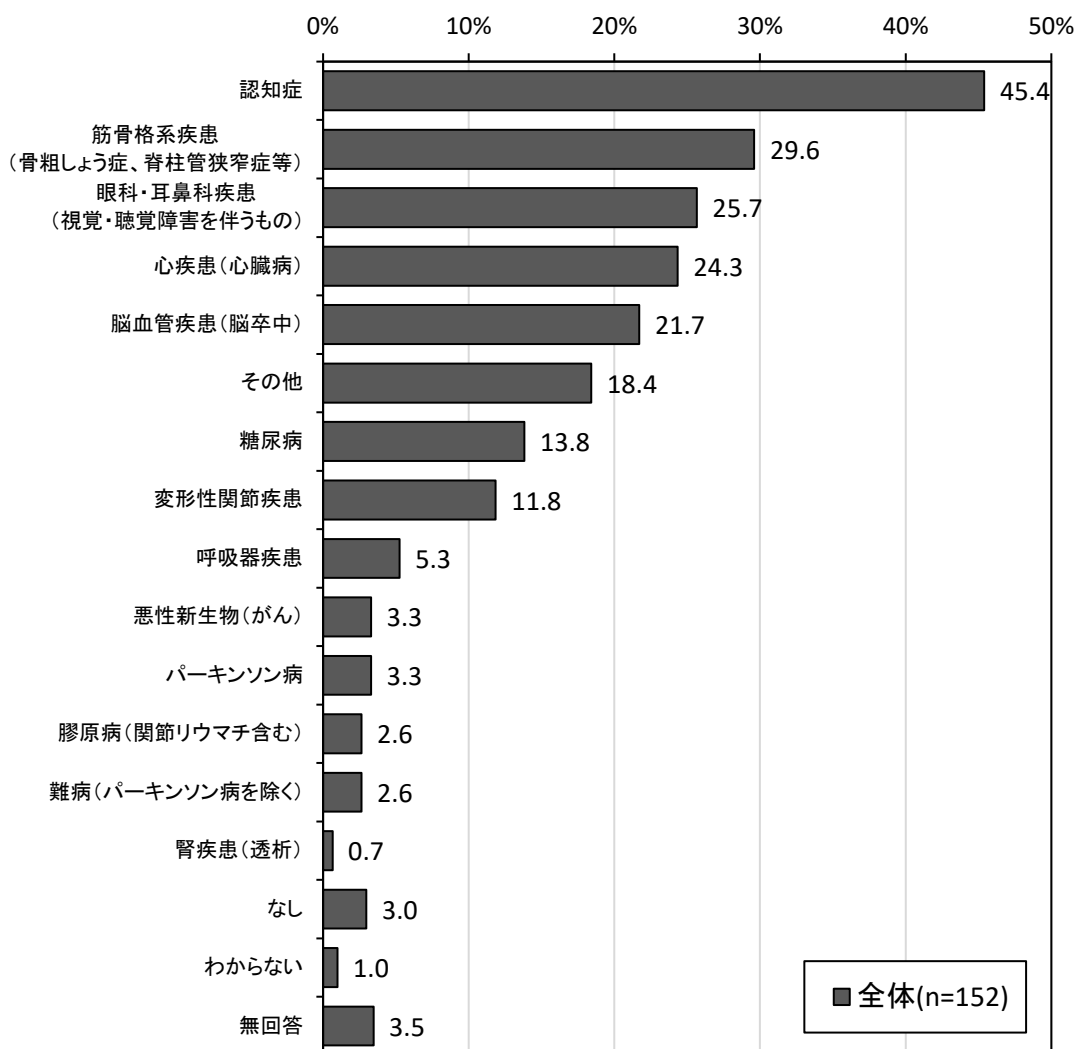
(7) 施設等への入所・入居の検討状況

「入所・入居は検討していない」が52.0%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」(26.3%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(16.4%)となっています。



(8) 本人が抱えている傷病【複数回答】

「認知症」が45.4%で最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（29.6%）、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（25.7%）が続いています。



(9) 介護保険サービスの利用有無

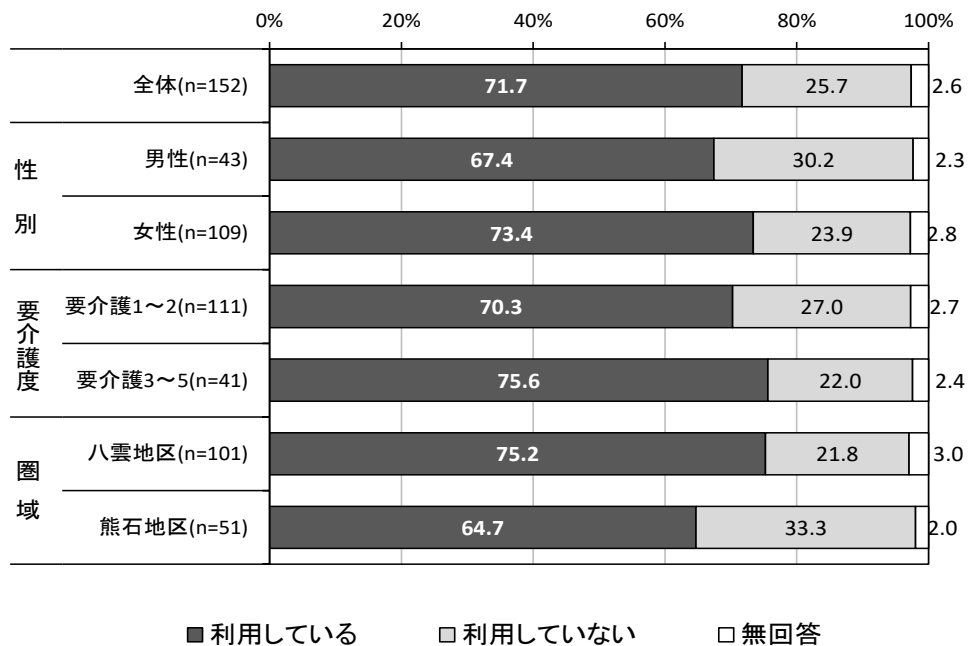
全体では、「利用している」は71.7%、「利用していない」は25.7%となっています。

「利用している」の割合をみると、男女別では男性、要介護度別では要介護1～2、圏域別では熊石地区みると、女性は男性よりも6.0ポイント多く、なっています。

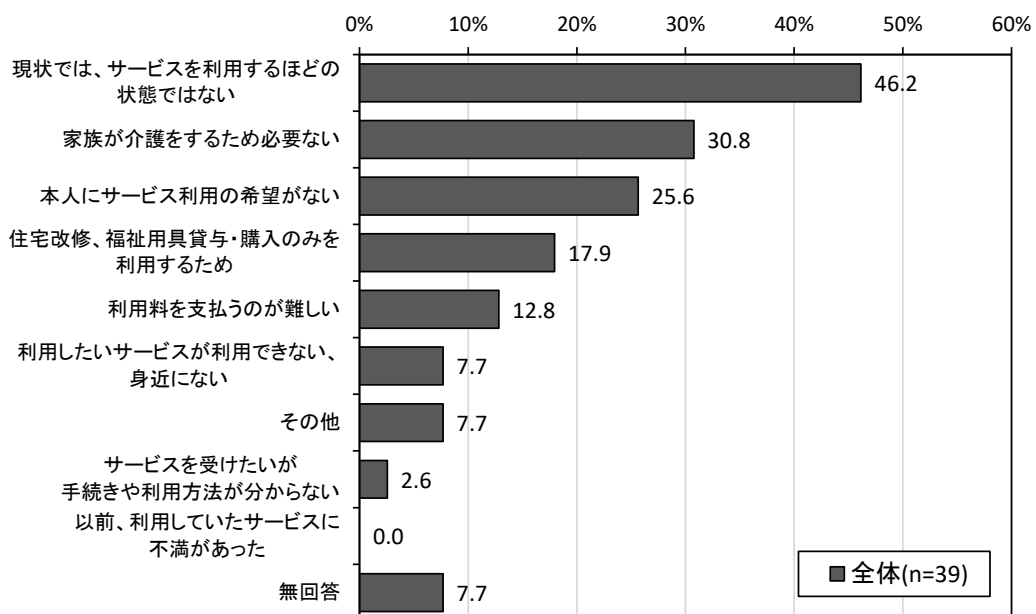
要介護度別でみると、「利用している」は要介護1～2よりも要介護3～5の方が5.3ポイント多くなっています。

圏域別でみると、「利用している」は熊石地区よりも八雲地区の方が10.5ポイント多くなっています。

《介護保険の利用状況》

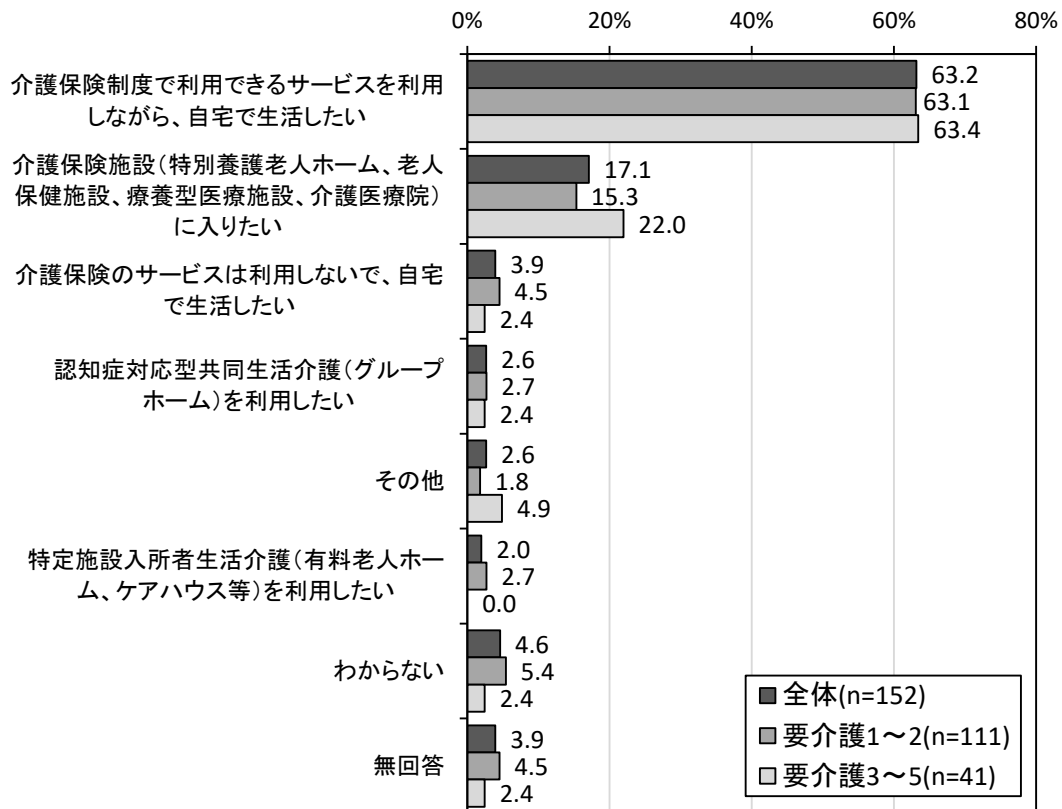


《介護保険を利用していない理由》



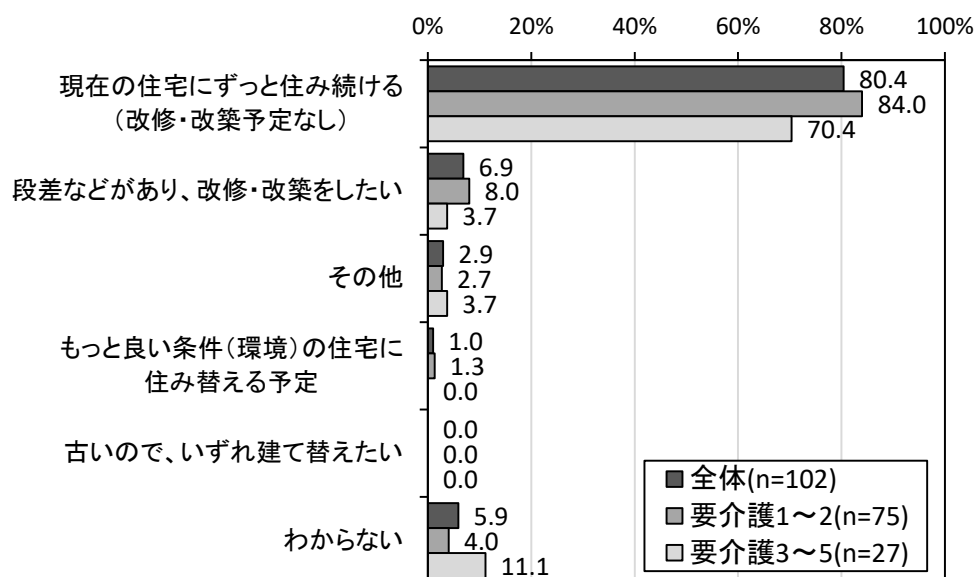
(10) 今後どのような介護を希望するか

全体でみると、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が63.2%で最も多く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）に入りたい」が17.1%が続いています。



(11) 在宅介護を希望する人の住まいの予定

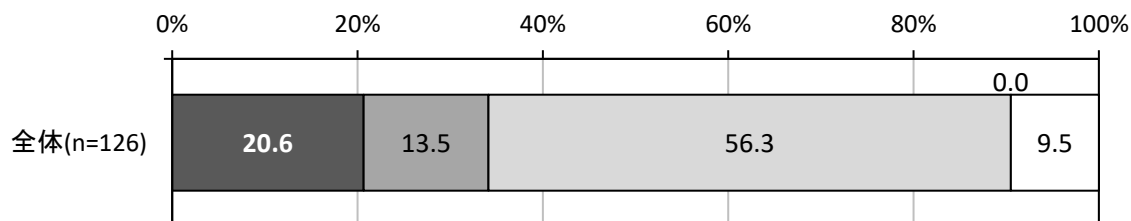
全体及び要介護度別でも「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が70%以上を占めています。



3. 主な介護者の状況について

(1) 主な介護者の勤務形態

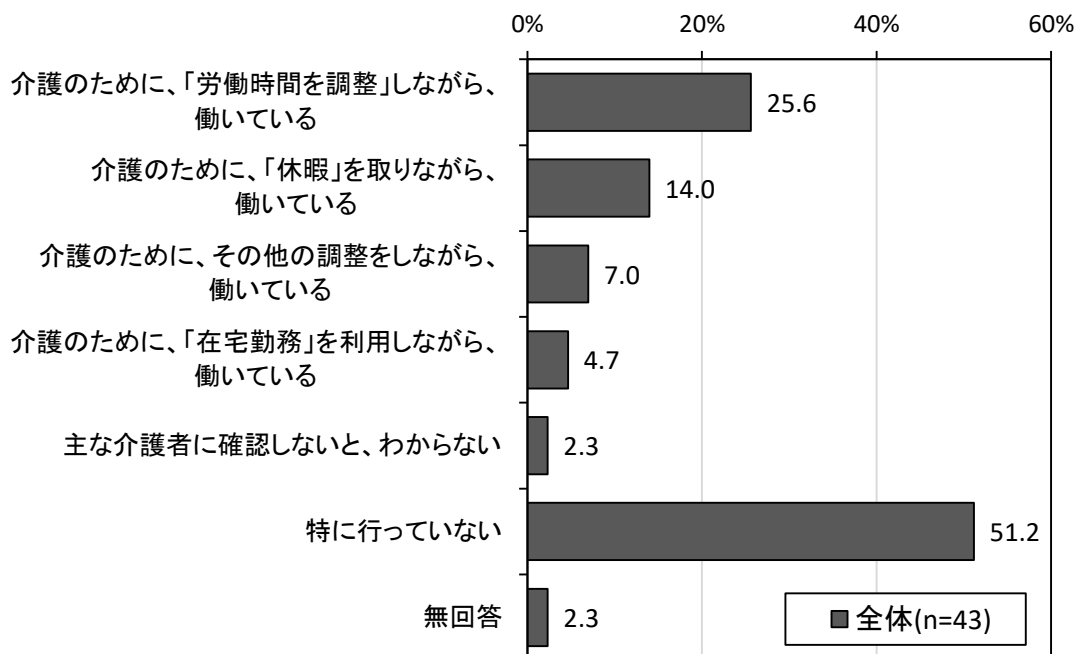
全体で見ると、「働いていない」が 56.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」(20.6%)、「パートタイムで働いている」(13.5%)が続いています。



- フルタイムで働いている
- パートタイムで働いている
- 働いていない
- ▣ 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

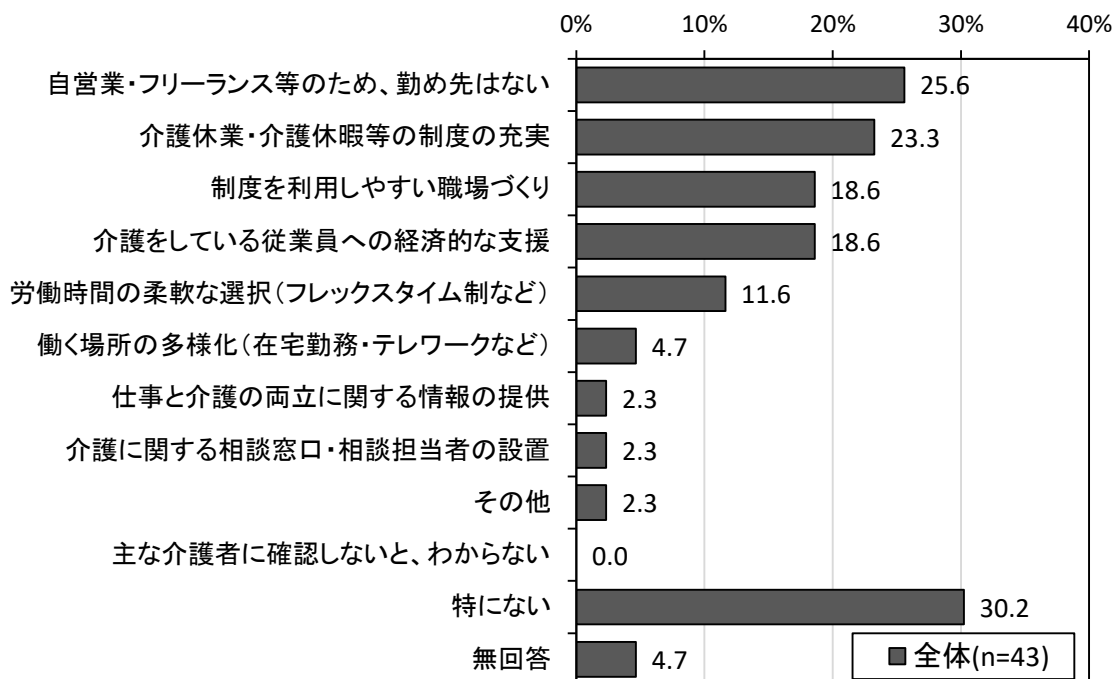
(2) 主な介護者の働き方の調整状況【複数回答】

「特に行っていない」が 51.2%で最も多くなっていますが、働き方を調整している中では、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」(25.6%)、「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」(14.0%)が多くなっています。



(3) 仕事と介護の両立に効果のある支援【複数回答】

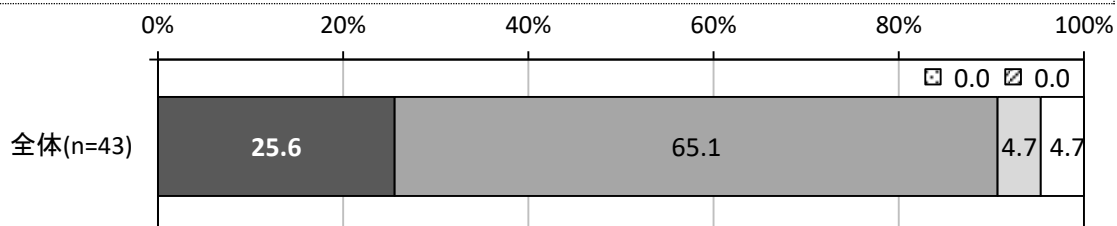
「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が25.6%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(23.3%)、「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」(ともに18.6%)が続いています。



(4) 主な介護者の就労継続可否

「問題なく、続けていける」(25.6%)及び「問題はあるが、何とか続けていける」(65.1%)の合計90.7%を占めています。

一方、「続けていくのは、やや難しい」は4.7%となっています。

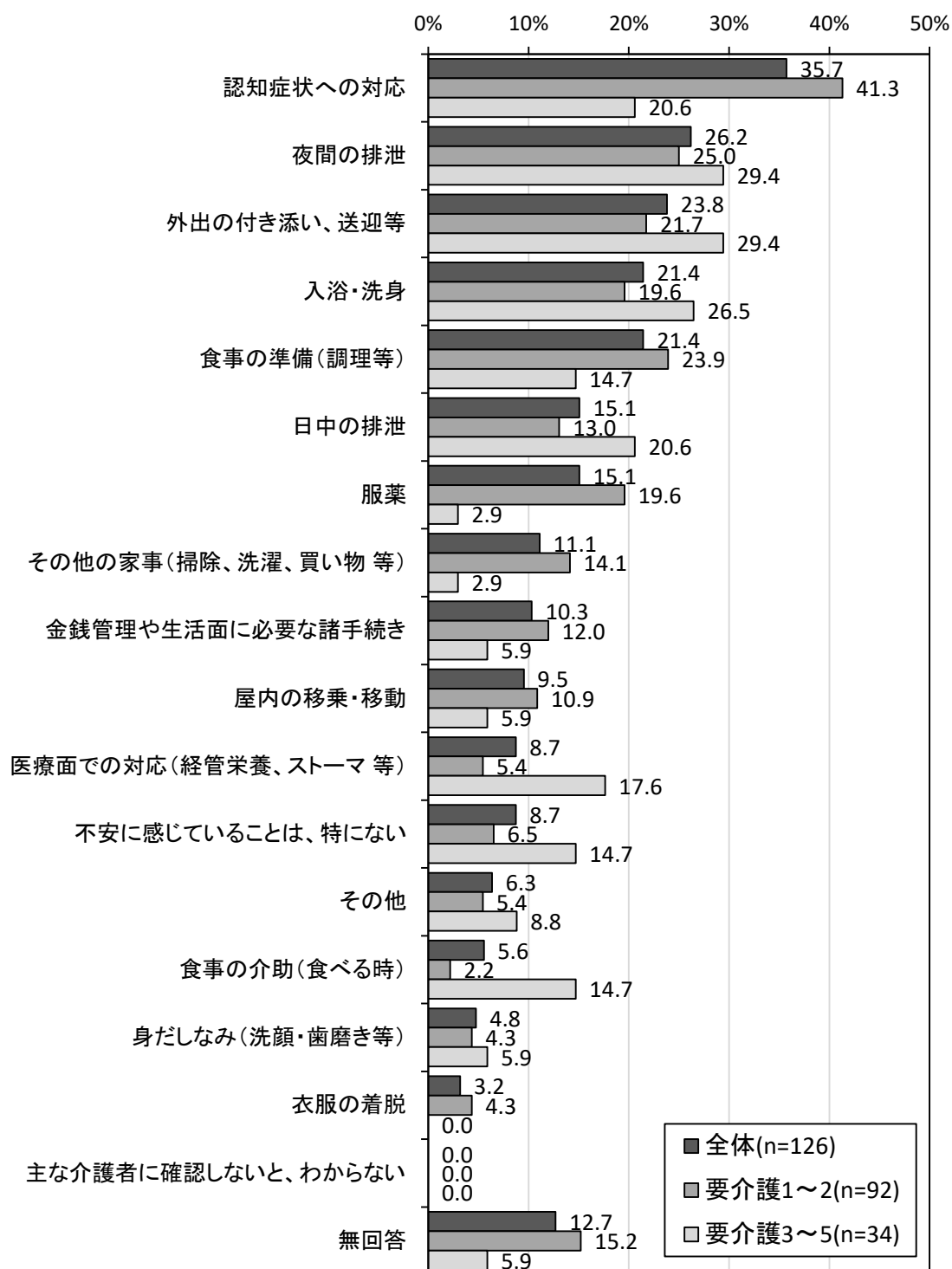


- 問題なく、続けていける
- 問題はあるが、何とか続けていける
- 続けていくのは、やや難しい
- ▣ 続けていくのは、かなり難しい
- ▣ 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

(5) 主な介護者が不安に感じる介護の内容【複数回答】

全体でみると、「認知症状への対応」が35.7%で最も多く、次いで「夜間の排泄」(26.2%)、「外出の付き添い、送迎等」(23.8%)が続いています。

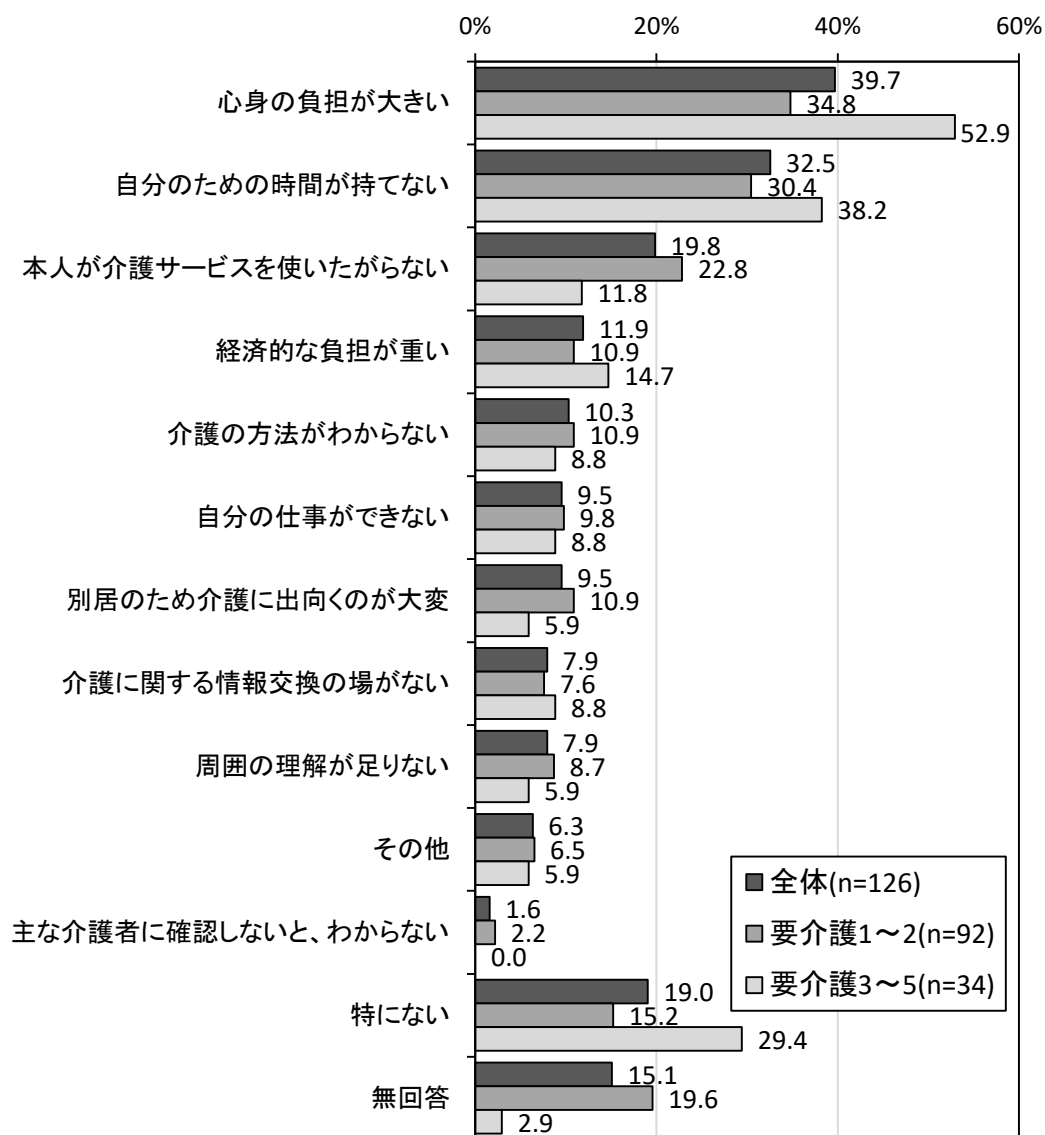
要介護度別でみると、要介護1～2は「認知症状への対応」が41.3%で突出していますが、要介護3～5は「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」がともに29.4%で最も多く、次いで「入浴・洗身」(26.5%)、「認知症状への対応」「日中の排泄」(ともに20.6%)が上位回答となっています。



(6) 主な介護者が介護をする上で困っていること【複数回答】

「心身の負担が大きい」が 39.7%で最も多く、次いで「自分のための時間が持てない」(32.5%)、「本人が介護サービスを使いたがらない」(19.8%)が続いています。

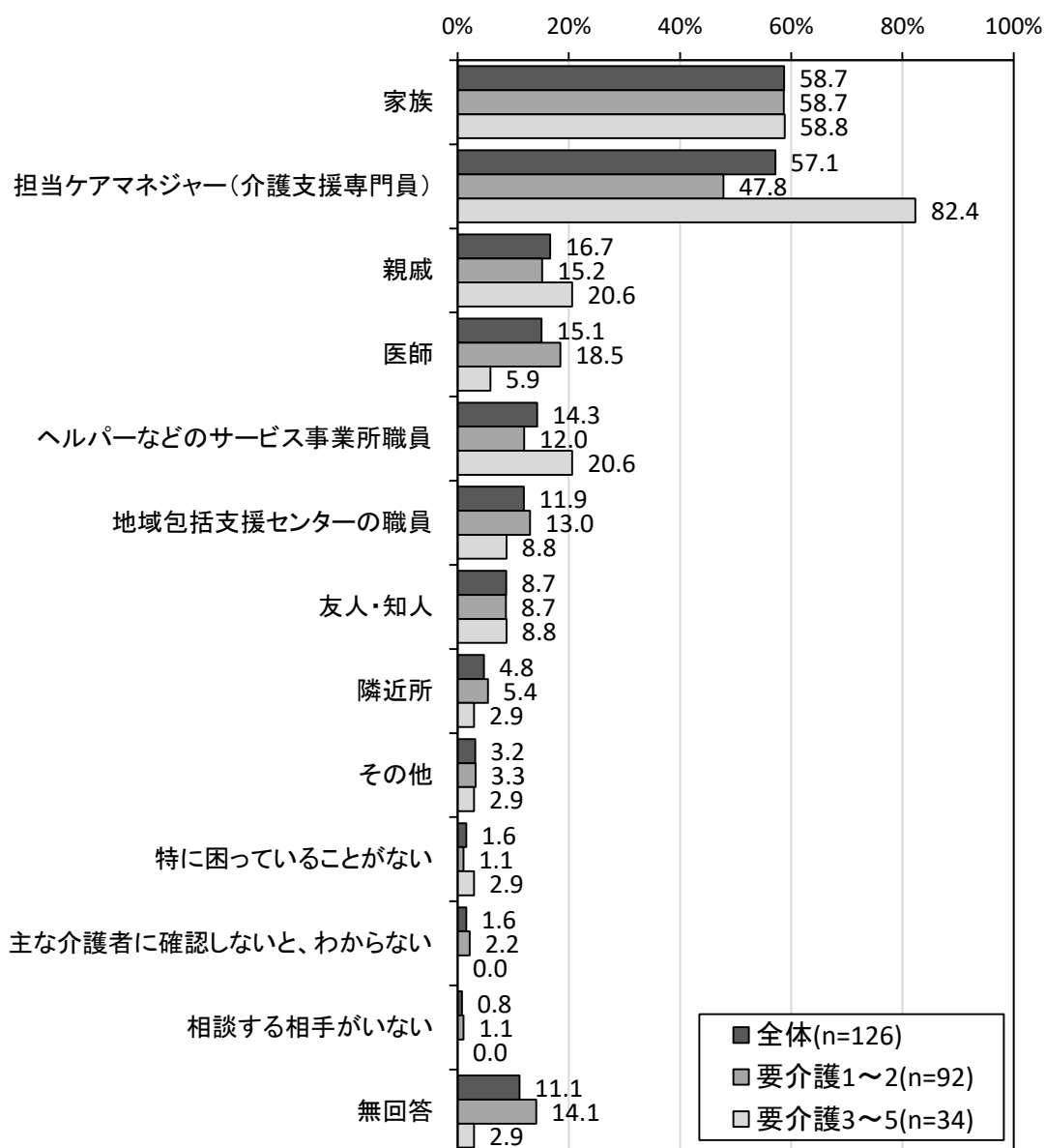
要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「心身の負担が大きい」が52.9%で非常に多く、介護負担の大きさが回答に表れていると考えられます。



(7) 介護に困ったときの相談相手【複数回答】

全体で見ると、「家族」が 58.7%で最も多く、次いで「担当ケアマネジャー（介護支援専門員）」（57.1%）が続いています。

要介護度別で見ると、要介護3～5は「担当ケアマネジャー（介護支援専門員）」が 82.4%で、要介護1～2と比べて 34.6ポイント高くなっています。

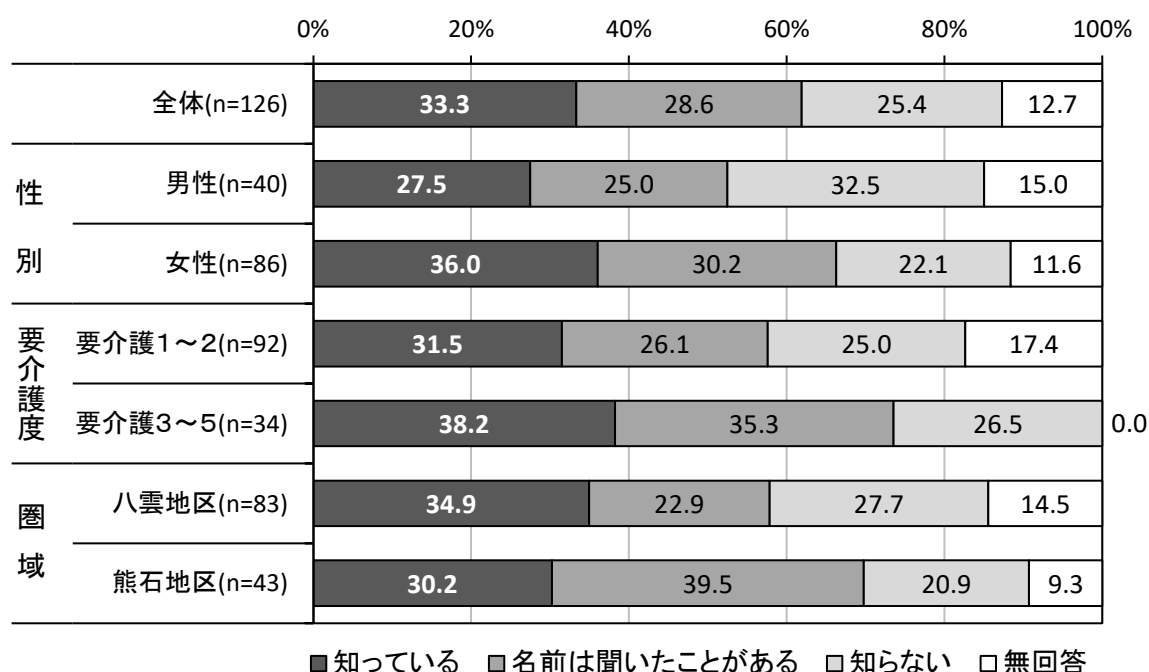


(8) 成年後見制度の認知度

全体で見ると、「知っている」は 33.3%、「名前は聞いたことがある」(28.6%)、「知らない」(25.4%)となっています。

男女別で見ると、男性よりも女性の方が「知っている」「名前は聞いたことがある」の割合が多くなっています。

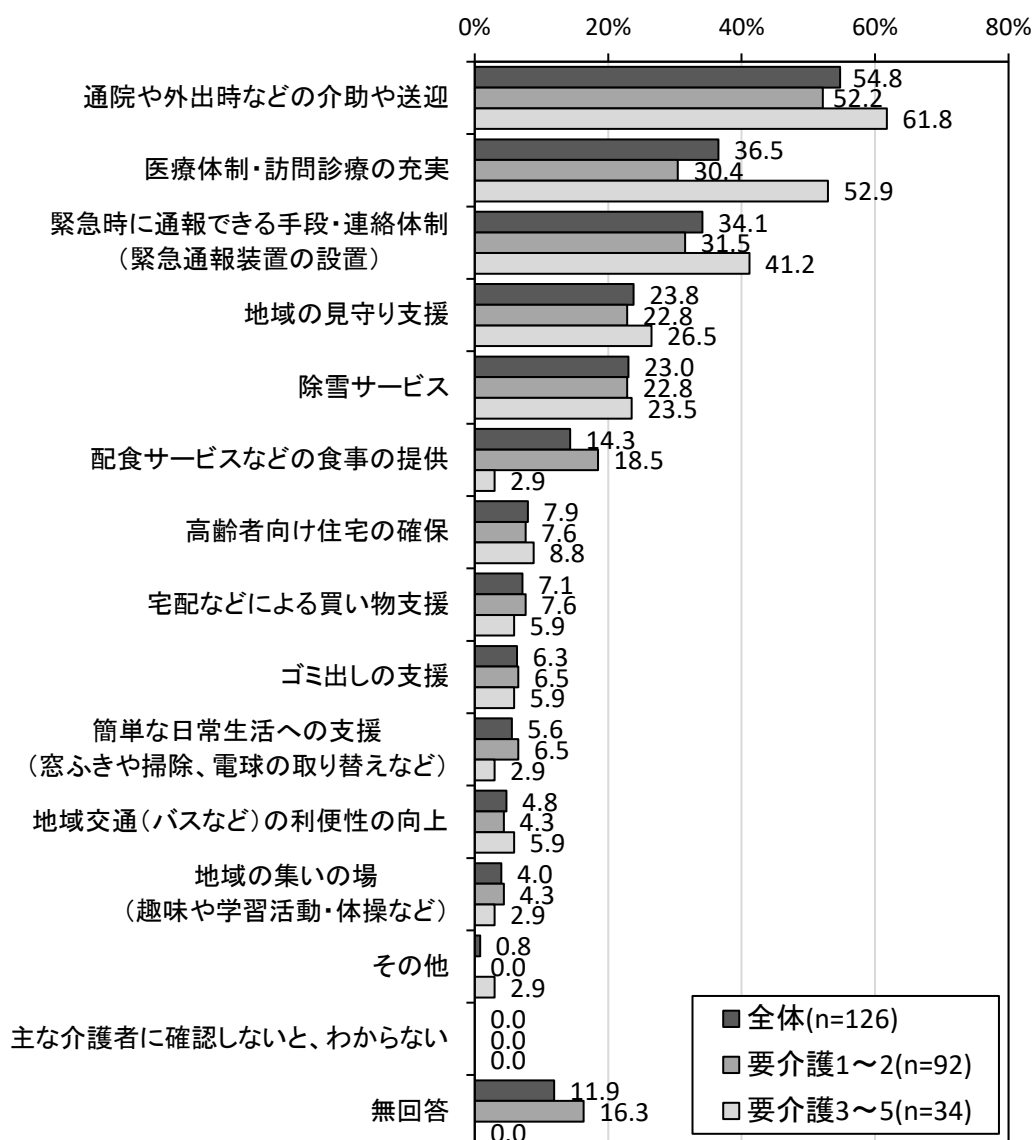
要介護度別で見ると、要介護3～5の方が要介護1～2よりも「知っている」「名前は聞いたことがある」の割合が多くなっており、圏域別では熊石地区よりも八雲地区の方が「知っている」がやや多くなっています。



(9) 高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けるために特に必要なこと

全体でみると、「通院や外出時などの介助や送迎」が 54.8%で最も多く、次いで「医療体制・訪問診療の充実」(36.5%)、「緊急時に通報できる手段・連絡体制(緊急通報装置の設置)」(34.1%)が続いています。

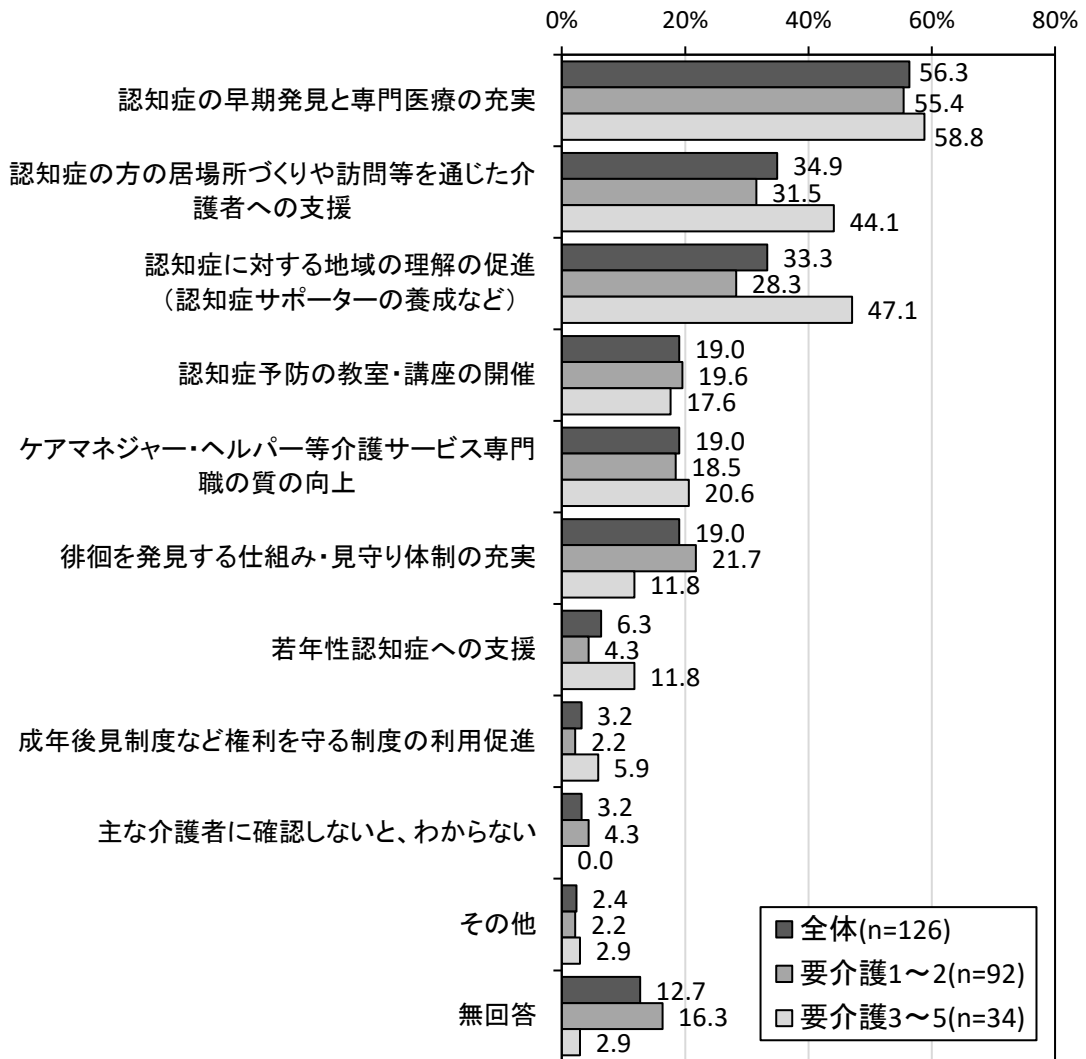
介護度別でみると、要介護3～5は要介護1～2と比べて「医療体制・訪問診療の充実」が 22.5ポイント高くなっています。



(10) 認知症対策を進める上で重点を置くべきこと

全体で見ると、「認知症の早期発見と専門医療の充実」が56.3%で最も多く、次いで「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(34.9%)、「認知症に対する地域の理解の促進（認知症サポーターの養成など）」(33.3%)が続いています。

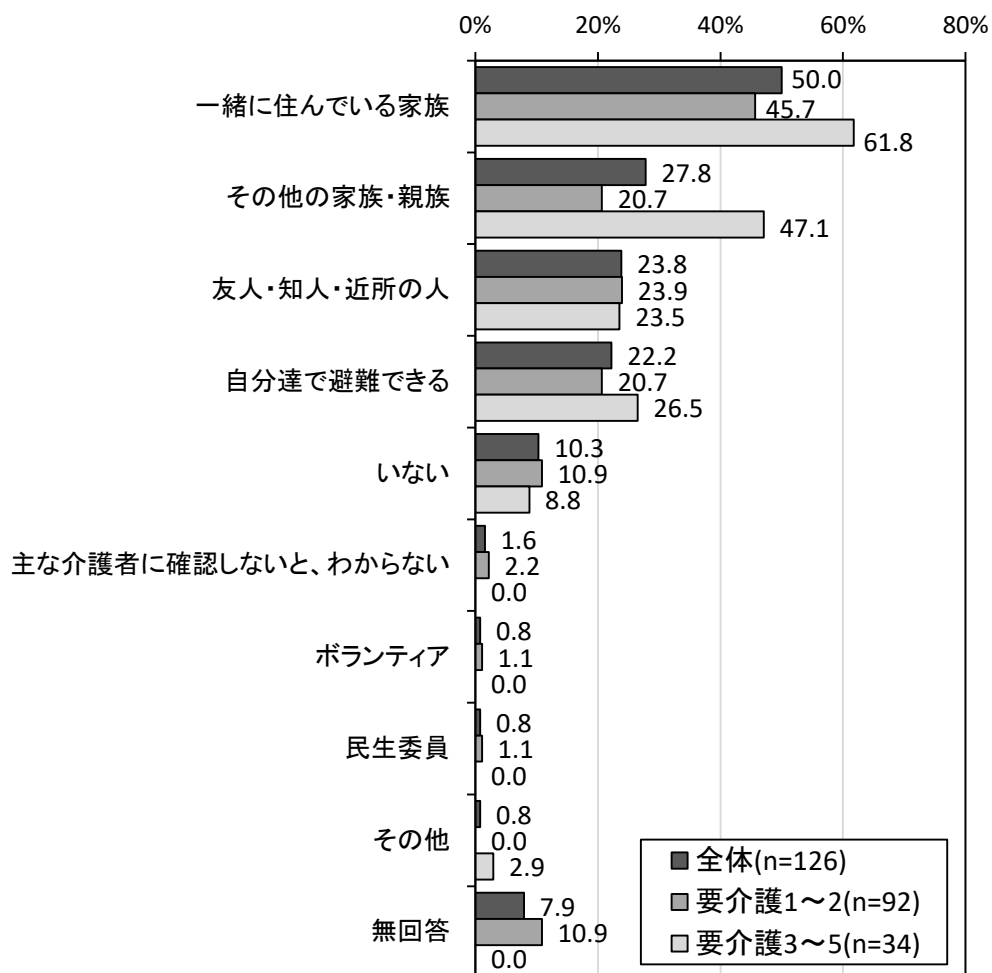
要介護度別で見ると、要介護3～5は「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(44.1%)、「認知症に対する地域の理解の促進（認知症サポーターの養成など）」(47.1%)が要介護1～2と比べて多くなっています。



(11) 災害発生時、避難する際に頼れる人がいるかどうか

全体で見ると、「一緒に住んでいる家族」が50.0%で最も多く、次いで「その他の家族・親族」(27.8%)、「友人・知人・近所の人」(23.8%)と続いています。

要介護度別にみると、全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「一緒に住んでいる家族」、「その他の家族・親族」が要介護1～2に比べて多くなっています。



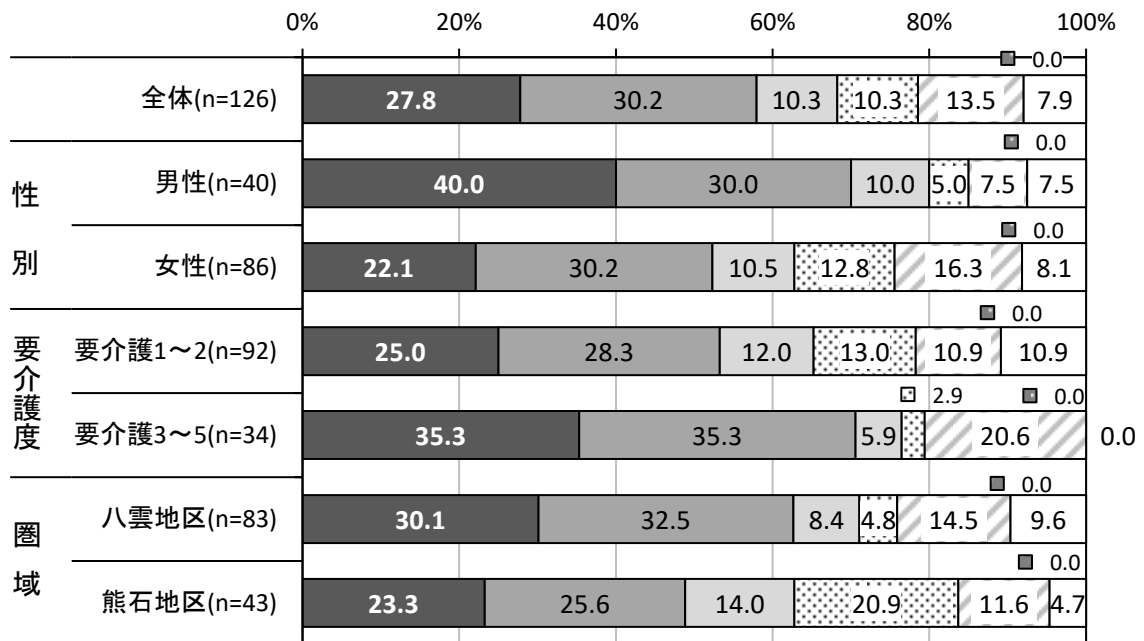
(12) 介護を受けている方にとっての町の暮らしやすさ

全体で見ると、「暮らしやすいと思う」(27.8%)、「どちらかといえばそう思う」(30.2%)の合計58.0%が暮らしやすいと回答しています。

男女別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、男性は70.0%を占め、女性は52.3%で少ない状況です。

要介護度別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、要介護1～2の53.3%に対して、要介護3～5は70.6%と非常に多くなっています。

圏域別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、八雲地区は62.6%、熊石地区は48.9%で八雲地区の方が多くなっています。



- 暮らしやすいと思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- 暮らしやすいとは思わない
- 主な介護者に確認しないと、わからない